

令和５年度 京都市地域リハビリテーション推進会議 次 第

令和５年１２月１８日（月）
午後２時００分～「研修室」

１ 報告

（１）地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について

- （別紙１） 「地域リハビリテーション推進研修」実施状況、プログラム
- （別紙２） 障害福祉サービス事業所等訪問支援事業チラシ
- （別紙３） 地域ガエルのお出かけ講座チラシ
- （別紙４） 失語症のある方の相談支援事業チラシ
- （別紙５） おはなし広場チラシ

（２）高次脳機能障害者支援の実施状況等について

- （別紙３） 地域ガエルのお出かけ講座チラシ〔再掲〕
- （別紙６） 作業体験プログラムチラシ
- （別紙７） 当事者・家族交流会チラシ
- （別紙８） 高次脳機能障害支援ネットワーク会議チラシ
- （別紙９） 入門講座（後期）チラシ

２ その他

【資料一覧】

- ・ 委員名簿（p1）
- ・ 京都市地域リハビリテーション推進会議開催要綱（p2）
- ・ 地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について（p5）
- ・ 高次脳機能障害者支援の実施状況等について（p12）
- ・ 別紙１～９（p21）

【別冊資料】

- （資料１） センター機関紙「リハ✿エール（第３０号）」
- （資料２） センター機関紙「リハ✿エール（第３１号）」

京都市地域リハビリテーション推進会議委員名簿

令和5年7月1日現在（敬称略）

氏 名	所 属 機 関 等
うえはら はるお 上原 春男	学識経験者／医師
かとう ひろし 加藤 博史	学識経験者／龍谷大学 名誉教授
いちだ てつろう 市田 哲郎	一般社団法人京都府医師会 理事
にう たくや 丹生 卓也	社会福祉法人京都市社会福祉協議会 参加支援部担当部長
きむら こうじ 木村 耕司	京都市身体障害者福祉施設長協議会 会長代理
あさだ ひろゆき 麻田 博之	一般社団法人京都府理学療法士会 会長
わたなべ さとし 渡邊 聡	一般社団法人京都府作業療法士会 会長
よしむら たかこ 吉村 貴子	一般社団法人京都府言語聴覚士会 会長
きのした なおこ 木下 直子	公益社団法人京都府看護協会 常任理事
あらき かおり 荒木 香織	一般社団法人京都医療ソーシャルワーカー協会 理事
さかい よしゆき 酒伊 良行	京都市障害者地域生活支援センター連絡協議会 理事
うがわ まさひろ 宇川 征宏	京都市居宅介護等事業連絡協議会 理事
まつくら かずき 松倉 一記	京都市生活介護等事業(障害者デイサービス)連絡協議会 生活支援員
にしむら さとし 西村 聡	公益社団法人京都府介護支援専門員会 理事
こんどう まさき 近藤 正樹	京都府健康福祉部リハビリテーション支援センター センター長
うえしま けいいちろう 上島 圭一郎	京都市域京都府地域リハビリテーション支援センター センター長
すがま こうじ 須蒲 浩二	京都市保健福祉局障害保健福祉推進室 企画・社会参加推進課長
さかもと たかふみ 坂本 貴文	京都市教育委員会事務局指導部 総合育成支援課長
にしお けん 西尾 健	京都市地域リハビリテーション推進センター 所長

（事務局）京都市地域リハビリテーション推進センター

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地

電 話：075-823-1650 F A X：075-842-1545

事務局員氏名	職 名
後藤 弘雅	三施設一体化整備担当部長
大塚 真理子	企画課長
山口 信義	相談課長
中芝 貴彦	支援施設課長
津島 道子	企画課企画係長
林 智裕	相談課相談判定係長
小野田 光宏	相談課地域リハビリテーション推進係長
全 智奈	相談課高次脳機能障害支援係長
溝口 真也	支援施設課機能訓練係長
渡辺 陽子	企画課係員

京都市地域リハビリテーション推進会議開催要綱

（目的）

第1条 京都市内における地域リハビリテーションの推進について、障害のある人が自立して住み慣れた地域でより質の高い生活が送れるように、本市と医療、福祉、介護、教育等の各分野の関係機関及び団体（以下「関係機関等」という。）が連携して地域におけるリハビリテーションを推進するため、専門的な見地から幅広く意見を求めることを目的として、京都市地域リハビリテーション推進会議（以下「推進会議」という。）を開催する。

（会議の役割）

第2条 推進会議は、次に掲げる事項について意見交換を行う。

- （1）地域リハビリテーション推進事業の実施に関すること。
- （2）地域リハビリテーションに関わる関係機関等の連携のあり方に関すること。
- （3）生活期（維持期）におけるリハビリテーションの効果的な推進に関すること。
- （4）その他地域リハビリテーションの推進に関すること。

（委員）

第3条 推進会議の委員は、別表に掲げる障害者福祉やリハビリテーションに関する団体及び関係機関（以下「構成団体」という。）から推薦された者、学識経験者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が依頼し、又は任命する。

（委員の任期）

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（議長等の指名）

第5条 市長は、委員のうちから推進会議の議長及び副議長を指名する。

2 議長は推進会議の進行をつかさどる。

3 議長に事故があるときは、副議長がその職務を代理する。

（推進会議の開催等）

第6条 推進会議は、市長が召集する。

2 市長は、必要に応じて課題別・分野別等のワーキンググループを開催することができ、ワーキンググループに関する事項は別に定める。

3 市長は、必要があると認めるときは、第3条に定める委員以外の関係者に出席を求め、説明及び意見を聴くことができる。

（事務局）

第7条 推進会議の事務を処理するために、京都市地域リハビリテーション推進センター企画課に事務局を置く。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、保健福祉局長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、決定の日から施行する。

(関係規約の廃止)

2 京都市地域リハビリテーション協議会規約（以下「旧規約」という。）は、廃止する。

(経過措置)

3 この要綱の施行の際、現に旧規約に基づく京都市地域リハビリテーション協議会（以下「協議会」という。）の委員である者は、この要綱の施行の日に推進会議の委員として依頼され、又は任命されたものとみなす。また、協議会の会長及び副会長にある者は、この要綱の施行の日に推進会議の議長及び副議長として指名されたものとみなす。この場合において、その依頼され、又は任命されたもの並びに指名されたものとみなされる者の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年11月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年12月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年7月1日から施行する。

京都市地域リハビリテーション推進会議構成団体等

団体名及び関係機関名等
学識経験者 一般社団法人京都府医師会 社会福祉法人京都市社会福祉協議会 京都市身体障害者福祉施設長協議会 一般社団法人京都府理学療法士会 一般社団法人京都府作業療法士会 一般社団法人京都府言語聴覚士会 公益社団法人京都府看護協会 京都医療ソーシャルワーカー協会 京都市障害者地域生活支援センター連絡協議会 京都市居宅介護等事業連絡協議会 京都市生活介護等事業所連絡協議会 公益社団法人京都府介護支援専門員会 京都市保健福祉局障害保健福祉推進室 京都市教育委員会事務局指導部総合育成支援課 京都府健康福祉部リハビリテーション支援センター 京都市域京都府地域リハビリテーション支援センター 京都市地域リハビリテーション推進センター

地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について（令和５年度会議資料）

１ 地域リハビリテーション推進事業

(1) 研修・指導事業

ア 地域リハビリテーション推進研修（別紙１）

市内の障害福祉サービス事業所等に勤務する職員を対象に、リハビリテーションをはじめ福祉・介護サービスに関する知識及び技術の向上を図ることを目的とした研修を実施している。

講座の一部については、健康長寿のまち・京都推進室及びこころの健康増進センターと連携し、共催とする取組を行っている。

講座については、令和３年度から、会場での開催とオンライン（Zoom）での開催を併用して実施している。実習については、令和３年度に、事業所等を訪問して実施する「出講型」の形式を新たに設け、令和４年度には、会場での実習も併せて実施した。令和５年度は、会場のみで開催する講座も実施している。

<地域リハビリテーション推進研修実施状況>

		令和３年度	令和４年度	令和５年度 (９月末現在)	増減 (R4→R5)
講座	講座数(講座)	18	20	10	△10
	定員数(人)	1,540	1,620	750	△870
	受講者数(人)	1,364	1,330	776	△554
実習	講座数(実習)	1	7	7	0
	定員数(人)	6	42	42	0
	受講者数(人)	3	48	54	6

※令和５年度は、１０月以降に１２講座を実施するとともに、実習は、事業所からの依頼による「出講型」の実習を随時実施する予定。

イ 総合支援学校等教職員研修事業

市内の総合支援学校や、肢体育成学級、通級指導教室等に従事する教職員のリハビリテーションに関する知識及び技術の向上を図るため、各校からの依頼に応じてリハビリ専門職員を派遣し、各校の希望に沿った研修等を実施している。

<総合支援学校等教職員研修事業実施状況>

	令和３年度	令和４年度	令和５年度（９月末現在）
事例研修	3校33回 延べ164人受講 ・西総合支援学校 ・東総合支援学校 ・呉竹総合支援学校	2校23回 延べ82人受講 ・西総合支援学校 ・呉竹総合支援学校	1校6回 延べ22人受講 ・西総合支援学校
肢体育成学級研究会	1校1回 延べ5人受講	1校2回 延べ10人受講	0校0回 延べ0人受講

※令和５年度は、１０月以降に事例研修として西総合支援学校で１２回研修予定。

ウ 障害福祉サービス事業所等訪問支援事業 （別紙２）

市内の障害福祉サービス事業所等からの依頼に基づき、利用者個々の身体状況の把握や介助の方法等について、当センターの専門職員（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等）が訪問のうえ助言を行っている。

令和３年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業所等からの依頼が例年よりも少なかった。

令和４年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況が少し落ち着いてきたこともあり、依頼がコロナ前の水準まで戻ってきた。令和５年度も、令和４年度と同様のペースで実施している。

<訪問実績>

		令和３年度	令和４年度	令和５年度 (９月末現在)
生活介護	訪問箇所数（箇所）	１１	１７	１０
	延訪問回数（回）	１３	４４	１８
	延指導職員数（人）	３１	１０４	２８
就労移行・ 就労継続支援	訪問箇所数（箇所）	７	５	２
	延訪問回数（回）	７	５	４
	延指導職員数（人）	１５	１３	５
居宅介護	訪問箇所数（箇所）	７	１１	７
	延訪問回数（回）	３	４	０
	延指導職員数（人）	１０	２５	１６
その他 (相談支援事業所等)	訪問箇所数（箇所）	２５	４７	２５
	延訪問回数（回）	２７	５８	２７
	延指導職員数（人）	１２７	４８５	２０１
計	訪問箇所数（箇所）	５０	８０	４４
	延訪問回数（回）	５０	１１１	４９
	延指導職員数（人）	１８３	６２７	２５０

エ 電動車椅子講習会

京都府警察中京警察署交通課及び電動車いす安全普及協会の協力を得て、電動車椅子を利用している方、これから利用を考えている方やその介助者、さらにはケアマネジャーなど利用に関する相談を受ける立場にある方等を対象に、電動車椅子を安全に利用していただけるよう、適切な操作方法等について、実技を中心とした講習会を実施している。

令和３年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から定員を半分としつつも、例年どおり実施する予定であったが、コロナの感染状況を踏まえ、令和４年２月は中止となり、３月開催分のみとなった。

令和４年度も同様に、定員を半分にして２回実施した。令和５年度は、定員を１５名に増やして２回実施する予定である。

＜電動車椅子講習会実施状況＞

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施回数（回）	1	2	1
参加者数（人）	5	17	14

※令和5年度は、11月に2回目を実施予定。

オ 関係機関等への講師派遣研修

（ア）地域ガエルのお出かけ講座（地域リハ関係）（別紙3）

リハビリテーションに関する知識及び技術の向上を図るため、関係機関等からの依頼に基づき、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職員による講師派遣を行っている。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、派遣の依頼が減少していたが、令和3年度からは、講座のメニューを充実させるとともに、より申込みいただきやすいように、参加人数の要件を「10名以上」から「5名以上」に緩和するなど、工夫しながら実施している。

（イ）その他の講師派遣

地域ガエルのお出かけ講座でメニュー化していない内容や、他機関と共同で講師を行う場合等についても、従来どおり関係機関等からの依頼に基づき、当センターで対応可能なものについては、講師の派遣を行っている。

＜講師派遣研修の状況＞

		令和3年度	令和4年度	令和5年度 (9月末現在)
地域ガエル のお出かけ 講座（地域 リハ関係）	箇所数（箇所）	3	7	3
	派遣回数（回）	5	9	3
	受講者数（人）	57	158	30
その他の 講師派遣	箇所数（箇所）	3	6	2
	派遣回数（回）	7	9	6
	受講者数（人）	108	171	119
計	箇所数（箇所）	6	13	5
	派遣回数（回）	12	18	9
	受講者数（人）	165	329	149

※令和5年度は10月以降、地域ガエルのお出かけ講座1件を実施予定

＜その他の講師派遣の内訳（令和５年度分（９月末現在））＞

	依頼者	派遣目的	派遣職員	参加者	参加人数
地域ガエル のお出かけ 講座 (地域リハ 関係)	障害者支援施設 大原野の杜	食事を安全にとるため に	ST1 名 PT1 名	支援者	1 1
	アサヒケアサービ ス株式会社 グループホーム安 らぎ	支援者の腰痛予防～か らだの使い方や姿勢の 工夫～	PT2 名	支援者	1 1
	アサヒケアサービ ス株式会社 ケアサービス富士	支援者の腰痛予防～か らだの使い方や姿勢の 工夫～	OT1 名 PT1 名	支援者	8
その他の 講師派遣	鳴滝総合支援学校 (３回)	生活援助従事者	PT1 名 OT2 名	受講対象高校生 (3 年 4 名)	8
	京都市立総合支援 学校教育研究会	日常生活動作（ADL）の 仕組みと支援のポイント（全体研修）	OT1 名	教職員	8 0
	京都市立総合支援 学校教育研究会	手の機能からみる ADL (分科会)	OT1 名	教職員	2 7

(2) 啓発事業

ア センター機関紙「リハ✿エール」の発行（別冊 資料１、資料２）

センター事業に関する情報等を発信するために発行し、関係機関に配布している（平成２７年１１月に創刊し、３箇月に１回程度の頻度で発行。ただし、令和５年度は、当センターの移転直前となるため、例年の１１月下旬発行分は見送り。）

今後も内容の充実とともに、より手に取って読んでいただける紙面づくりに努める。

<令和５年度の発行状況>

発行月	内 容
令和５年５月 (第３０号)	・ 高次脳機能障害入門講座の案内 ・ 障害者支援施設の食事の紹介 ・ 地域リハビリテーション推進研修の紹介
令和５年８月 (第３１号)	・ 脳障害を理解するっ!!（高次脳機能障害・発達障害・認知症）Season2 ・ 障害者支援施設の訓練プログラム（作業活動）の紹介 ・ 「電動車椅子の講習会」の案内 ・ 地域リハビリテーション推進研修（10月以降開催講座の申込受付）の紹介

イ インターネットを使った情報発信

フェイスブックを活用して、障害福祉サービス事業所等訪問支援事業や地域リハビリテーション推進研修等の情報発信を行っている。

2 相談事業

(1) からだの動きに障害のある方の体力測定会&からだの相談会

身体に障害をお持ちの方の体力の確認、身体機能の維持・向上及び社会参加の促進を目的として、体力測定会と、専門職員（医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、ケースワーカー）による「からだの相談会」を実施している。

令和5年度は、令和4年度に引き続き、集団で実施するのではなく、1時間ごとに2名の少人数で実施した。

<体力測定会&からだの相談会実施状況・参加者数>

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施回数（回）	2	2	2
参加人数（人）	10	11	14

※測定項目：血圧、握力、下肢筋力、棒反応、長座位体前屈、バランス機能、歩行速度等

(2) 失語症のある方の相談支援事業（別紙4）

失語症のある方の社会参加を促進するため、失語症のある方やその家族、支援者に対して、言語聴覚士が中心となって個別相談やグループワークによる会話の練習等を行い、障害の理解を深めていただくとともに、コミュニケーション手段の助言や利用できる社会資源の紹介、利用のための橋渡しを行っている。

<失語症のある方の相談支援事業実施状況>

	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (9月末現在)
相談者数（人）	12	13	9
うち継続相談者数（人）	2	3	1
延べ相談回数（回）	12	14	9

(3) おはなし広場（別紙5）

言語に障害のある方が、言語訓練後も自信を持って社会参加できるよう、言語聴覚士が中心となって語らいの場を提供している。

平成29年度からは失語症のある方の相談支援事業の中にあるグループワークの一つとして位置付け、当事者間の語らいや交流の場として開催するとともに、新規の利用者拡大を図っている。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催を一時中止する月もあったが、令和4年度からは、予定どおり開催できている。最近は、新しい参加者が増えるなど、地域で生活されている失語症の方のコミュニケーションの場としての役割も果たしている。

＜おはなし広場実施状況＞

	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (9月末現在)
実施回数(回)	21	30	15
参加者数(人)	137	188	105

(4) その他の専門相談（からだの動きに障害のある方の相談等）

からだの動きに障害のある方等からの様々な相談や社会活動、社会参加に関する相談、福祉用具全般に係る利用相談等、障害のある方の障害特性や各々の活動目的に対応した専門相談を実施している。

＜相談実績＞

	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (9月末現在)
からだの動きに係る相談	13	22	8
福祉用具に係る相談	2	2	2

高次脳機能障害者支援の実施状況等について (令和5年度会議資料)

1 高次脳機能障害者支援センター

当事者やその家族、関係機関等から高次脳機能障害に関する相談をお受けし、支援コーディネーター等専門スタッフが地域生活支援等の個別支援のほか、障害福祉サービス事業所や医療機関等への支援を行っている。(令和5年度は医師1、保健師1、看護師2、心理判定員2、作業療法士1の体制)

(1) 個別支援及び事業所支援

ア 相談状況（新規相談件数）

支援センターへの新規の相談件数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、近年はやや減少傾向にある。相談内容としては、症状や対応方法についての相談、当センター施設利用も含めた何らかのリハビリや訓練に関する相談、就労・復職や日中活動に関する相談が多い。

<相談者別状況>

相談者	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (9月末現在)
本人	30	35	13
家族	79	65	38
支援者等	82	83	39
合計	191	183	90

<方法別状況>

相談方法	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (9月末現在)
電話	183	173	85
来所	8	10	5
合計	191	183	90

<相談内容別状況>

相談内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (9月末現在)
疾病・症状	46	38	9
対応方法	15	15	8
診察希望	8	9	5
退院後の生活	8	12	3
リハビリ希望	16	22	12
当センター支援施設利用	45	39	29
日中活動（在宅福祉サービス等）	12	17	9
就労・復職	37	30	6
復学	0	2	0
運転関係	1	0	1
各種制度（手帳、年金など）	10	8	3
その他	21	29	22
うち、本障害に関すること	19	24	20
本障害に起因しない相談	2	5	2
合計	219	221	107

イ 支援状況

これらの相談に対して行った支援の具体的な内容は以下のとおりである。

復職、新規就労や福祉サービスの利用等については、それぞれの方の障害特性を踏まえた支援調整が必要となるため、担当の支援コーディネーターを決めたうえで継続的な支援を行っている。

＜支援内容の内訳及び件数＞（支援した内容をすべてカウント）

支援内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (9月末現在)
対処方法や制度等の助言	1, 9 8 6	2, 1 3 9	1, 0 2 1
当センター障害者支援施設	8 2	5 5	2 5
専門医による診察	1 3 2	1 4 9	6 0
確定診断	1 2	2 1	1
支援方針の策定等	9 1	9 9	4 5
診断書作成	2 9	2 9	1 4
心理検査	4	1 2	2
作業体験プログラム	1 7 1	1 2 6	4 7
カンファレンス参加	2 5	1 8	1 2
当事者・家族交流会	7 6	1 3 4	7 4
その他	6 6	7 3	6 9
合計	2, 5 4 2	2, 7 0 6	1, 3 1 0

＜継続支援の状況＞

（令和4年度）

内訳		件数
継続支援を要する相談		9 4
支援終了件数		3 0
支援結果	地域生活移行や日中活動支援	6
	就労（復職、新規）	5
	就労支援事業所利用	5
	復学や学校生活	1
	確定診断	5
	その他（支援事項の消滅等）	8
令和5年度に引き継ぐ件数		6 4
支援ニーズ	地域生活移行や地域生活	1 3
	就労	4 4
	復学や学校生活	3
	確定診断	4
	その他	0

（令和5年度（9月末現在））

内訳		件数
継続支援を要する相談		7 7
支援終了件数		1 3
支援結果	地域生活移行や日中活動支援	1
	就労（復職、新規）	7
	就労支援事業所利用	1
	復学や学校生活	0
	確定診断	2
	その他（支援事項の消滅等）	2
継続中の件数		6 4
支援ニーズ	地域生活移行や地域生活	8
	就労	5 0
	復学や学校生活	4
	確定診断	2
	その他	0

ウ 作業体験プログラム （別紙６）

高次脳機能障害による仕事への影響や現在の作業能力を評価するとともに、工夫の提案等を行う小集団のプログラムを実施している（週１回、１回２時間、１人当たりの参加回数は８回程度）。模擬的な職場環境を設定し、様々な作業体験や他者とのやり取りの経験を通して、参加者自身が今後の働き方を検討する機会となっている。プログラムで得た個別の評価結果や代償手段の提案などを今後の就労検討に活用してもらうことを目的に、参加者に作業体験報告書を作成し、交付している。プログラム終了後は、復職や新たな就職、福祉就労等に向けて、担当の支援コーディネーターが、職場やハローワーク、障害者職業センター、就労支援事業所等の相談や見学に同行し、障害特性を踏まえた仕事選びや工夫、対応について助言するなどの個別支援を行っている。

令和５年５月中旬までは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策（１回当たりの定員縮減、開催回数を週２回に拡大、検温、手指の消毒、換気、ソーシャルディスタンスに配慮した座席配置等）を徹底した上で実施した。

	令和３年度	令和４年度	令和５年度 (９月末現在)
実施回数	４６	６０	２８
参加実人数	２７	２０	８
参加延人数	１７１	１２６	４７

エ 当事者・家族交流会 （別紙７）

同じような経験者だからこそ「安心して話せる」「分かってもらえる」場を設け、孤独感や不安感の軽減と、今後の生活に役立つ情報交換や相互支援を図ることを目的に、月に１回開催している。

また、交流会参加者のニーズを踏まえ、生活を広げていくうえで利用できる制度や資源を知ることが目的とした行事の企画（事業所訪問等）を行っている。

令和３年度及び令和４年度は、感染症拡大防止の対策（１グループ当たりの人数制限、検温、手指の消毒、換気、ソーシャルディスタンスに配慮した座席配置等）を徹底した上で実施した。

<当事者・家族交流会実施状況>

	令和３年度	令和４年度	令和５年度 (９月末現在)
実施回数	８	１２	５
延べ参加者数	７６	１３４	７４

オ 高次脳機能障害支援ネットワーク会議 （別紙８）

平成２７年度までは京都府が府下全域を対象に開催。平成２８年度は京都市域での実施がなかったが、平成２９年度からは京都府と本市の共催により開催している。

高次脳機能障害に対する理解を深めるとともに、医療、福祉、介護、就労、教育、相談支援等の高次脳機能障害者支援に関わる機関で、取組状況を情報共有するとともに、地域の置かれている課題について意見交換を行うなど、関係機関相互の切れ目のない支援ネットワークの構築を図っている。

<高次脳機能障害支援ネットワーク実施状況>

年度	実施日	内容	参加者数
令和 ３年度	10月29日	(Zoomによるオンライン開催) 講演「医療から地域へ～神奈川リハビリテーション病院の取組から～」 神奈川リハビリテーション病院 青木重陽氏 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏 グループでの交流・意見交換	62
令和 ４年度	11月17日	(会場とオンライン「Zoom」のハイブリッド開催) 講演「脳障害を理解するっ!! (高次脳機能障害・発達障害・認知症)」 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏 京都大学医学部附属病院精神科神経科助教 上床輝久氏 グループでの交流・意見交換 ※ 地域リハビリテーション推進研修との共催	101 後日講演部 分録画視聴 30
令和 ５年度	12月6日	「京都市域における高次脳機能障害のある方への就労支援」 報告「就労支援の取組」 ハローワーク京都七条 京都障害者職業相談室 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構京都支部 京都障害者 職業センター 京都障害者就業・生活支援センター しょうがい者就業・生活支援センターはあとふるアイリス 京都ジョブパークはあとふるコーナー 京都府リハビリテーション支援センター（かもがわグループ） 京都市高次脳機能障害者支援センター（作業体験プログラム） 講演「脳外科医と精神科医が考える就労支援のタイミング」 京都大学医学部附属病院脳神経外科特定講師 舟木健史氏 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏 事例検討「(支援者向け) 上手な就労支援機関の使い方」 京都大学医学部附属病院脳神経外科特定講師 舟木健史氏 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏 各就労支援機関職員	—

(2) 各種研修

ア 入門講座 （別紙 9）

高次脳機能障害のある方やその御家族、支援者及び関心のある方を対象に、高次脳機能障害の基礎知識を学ぶ機会として、平成 27 年度から実施している。

参加者の内訳としては、概ね当事者や家族が 2 割、支援者やその他市民等が 8 割の比率となっている。

令和 3 年度以降は、会場での集合研修と YouTube を活用したオンライン研修とを合わせて開催している。

<入門講座実施状況>

開催回	内 容	参加者数					
		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
第 1 回	高次脳機能障害 概説	1 4 1	7 3	1 5 5	1 3 2	2 4 4	
第 2 回	注意障害・記憶障害・遂行機能障害	1 6 0	9 9	1 7 6	1 4 4	3 2 5	
第 3 回	社会的行動障害	1 7 6	9 8	1 7 6	1 4 2	3 3 8	
第 4 回	失語症	1 6 8	1 0 7	2 0 4	1 5 0	3 4 5	
第 5 回	就労	1 6 2	1 0 2	1 8 4	1 3 7	3 1 7	
特別編	当事者・家族の声、関連事業所紹介	—	1 6 0	—	2 6 9	—	

※参加者数は、会場受講者数とオンライン受講申し込み者数を合算した数を計上

イ 医療機関研修

医療機関との連携強化や障害理解促進を目的として、平成 28 年度から医療機関（急性期病院や回復期病院等）が主催する院内研修に講師派遣を行ってきた。令和元年度及び令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。令和 3 年度からはオンライン会議システム（Zoom）を使用し、当センター主催の研修会として開催している。

<医療機関研修実施状況>

年度	実施日	内 容	参加人数
令和 3 年度	11 月 17 日	講演「脳損傷後の各ステージで医療に求められる役割」 (Zoom によるオンライン開催) 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏	6 0
令和 4 年度	10 月 27 日	講演「高次脳機能障害の症例から学ぶ 入院中の関わりと退院時 支援のススメ」(Zoom によるオンライン開催) 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏	7 9
令和 5 年度	3 月 11 日 (予定)	講演「脳損傷後の様々な後遺症と患者さんの気づき (仮題)」 (Zoom によるオンライン開催) 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏	—

ウ よくわかる高次脳機能障害セミナー（介護保険施設・事業所職員対象研修）

介護保険施設や事業所職員への高次脳機能障害の周知を目的に、平成30年度から、介護ケア推進課の協力を得て、「京都市認定調査員現任研修会」の同日午前に、同じ会場で実施してきた。

令和2年度からは、オンライン会議システム（Zoom）を使って開催している。

<よくわかる高次脳機能障害セミナー実施状況>

年度	実施日	内容	参加者数
令和3年度	1月20日	「認知症ケアの知識と経験はこう使える！～共通点と相違点～」	157
令和4年度	1月19日	同上	97
令和5年度	3月4日 (予定)	同上	—

エ 支援者向け研修

医療、福祉、介護、就労、教育、相談支援等の関係機関職員を対象に、高次脳機能障害への理解を深め、専門知識及び支援技術の向上を図ることを目的に研修を実施している。

年度	実施日	内容	参加者数
令和5年度	11月8日	（会場とオンライン「Zoom」のハイブリッド開催） 講演「脳障害を理解するっ!!（高次脳機能障害・発達障害・認知症）Season2」 小石川東京病院精神科副院長 丹治和世氏 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏 ※ 地域リハビリテーション推進研修との共催	—

オ 事業所等での研修・講師派遣（別紙3）〔再掲〕

平成29年度から、支援機関及び地域に専門職員を派遣し、リハビリテーションに関する知識や技術の向上、高次脳機能障害支援の拡大を目的とした「地域ガエルのお出かけ講座」を開催している。

また、令和元年度からは、小児の高次脳機能障害について、教育委員会総合育成支援課と連携し、教職員への研修に参画している。

＜小児高次脳機能障害研修実施状況＞

年度	開催機関	内容	派遣講師	参加者数
令和 3 年度	LD 等通級指導専門性 向上研修会（10/6）	「発達障害と高次脳機能障害の 違いと関連性について」 （Zoom によるオンライン開催）	京都大学医学部附属病院 作業療法士 草野祐介氏	4 1
令和 4 年度	LD 等通級指導専門性 向上研修会（2/13）	「子どもの高次脳機能障害と学 校生活～リハビリテーションの 視点を活かす～」 （Zoom によるオンライン開催）	千葉県千葉リハビリテーシ ョンセンター 中島友加氏、須田真紀氏、 川原佑亮氏	4 8
令和 5 年度	LD 等通級指導専門性 向上研修会（11/14）	「ケースから考える！ 発達障 害・高次脳機能障害による読み 書き困難」	大阪市立総合医療センター 小児脳神経内科・小児言語 科医長 温井めぐみ氏	—

＜地域ガエルのお出かけ講座（高次脳関係）他、関係機関への講師派遣研修実施状況＞

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度 （9 月末現在）
派遣回数	2	2	8
受講者数	2 9	3 6	8 3

(3) 普及啓発

ア 市民向け啓発

令和 3 年度より、入門講座を YouTube 上でオンデマンド配信することにより、高次脳機能障害の知識を広く市民に届けられるようにしている。

イ リーフレット

高次脳機能障害者支援センター及び障害者支援施設のリーフレットを、関係機関に送付するとともに、各種研修等でも配布している。

ウ インターネットを使った情報発信

高次脳機能障害者支援センター独自のホームページとフェイスブック、YouTube チャンネル等を活用して、高次脳機能障害に関する知識の普及や研修等の情報発信を行っている。令和 3 年度より、当センターの事業や研修等の紹介動画を YouTube チャンネル上に公開している。

2 高次脳機能障害に特化した障害者支援施設

(1) 施設概要

当センター内に設置されている障害者支援施設について、平成27年4月から、支援対象者を従来の肢体不自由のある方から高次脳機能障害のある方に転換し、平成27年10月からは短期入所支援も開始している。

〔定員〕

- ① 自立訓練 40名（生活訓練15名、機能訓練25名）
（うち入所支援30名）
- ② 短期入所 2名（空床利用）

(2) 運営実績

新施設運営開始から一定年数が経過し、回復期リハビリテーションを実施している市内の主な医療機関を中心に利用者を受け入れてきた結果、年々利用者が増加し、令和元年度には、月平均利用者数が33人となった。

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、月平均利用者数が減少し、令和4年度も感染者数の拡大の影響により月平均利用者数が24人となったが、令和5年度に入り、利用希望者は増えてきている。

コロナ対策としては、引き続きクラスターの発生を予防するため手指消毒など基本的な感染予防対策を行うとともに、換気をしっかり行うなど感染予防に注意を払いながら施設運営を行っている。施設利用の見学や面接については、必要な訓練を求めている方々のニーズを満たせるように感染予防を心掛けながら受け付けている。

今後、新しい支援施設のパンフレットを作成し、関係機関への定期的な配布や動画を活用するなどPR活動の強化に努め、より多くの利用者の確保を図っていききたい。また、業務内容等の効率化を図るなど効果的な取組の検討を進めていく。

ア 訓練別利用者の状況

	総数		
		入所	通所
総数	27	7	20
生活訓練	20	4	16
機能訓練	7	3	4

（令和5年9月末現在）

イ 利用開始・終了の状況

開始・終了	サービス種別		令和3年度	令和4年度	令和5年度 (9月末現在)
新規利用開始	自立訓練	機能訓練	6	8	3
		生活訓練	10	10	8
	施設入所支援		5	8	1
利用終了	自立訓練	機能訓練	8	11	3
		生活訓練	10	9	4
	施設入所支援		9	7	3

＜令和5年度の月別の状況＞

※「月末現在数」の「計」は「月平均値」

		4	5	6	7	8	9	計
新規利用	自立訓練	2	1	1	1	4	2	11
	入所支援	0	0	0	0	0	1	1
利用終了	自立訓練	2	1	1	2	1	0	7
	入所支援	1	0	1	0	1	0	3
月末現在数		23	23	23	22	25	27	23.8
	入所支援	8	8	7	7	6	7	7.2
短期入所延人数		1	0	3	3	2	1	10
	実利用者数	1	0	2	2	2	1	8

ウ 自立訓練終了者の状況（令和4年度、5年度分）

※令和5年度は9月末現在

年度	訓練種別	復職	新規就労	就労移行支援施設	就労継続施設等	生活介護事業所	その他施設	介護保険サービス	学校	その他	合計
令和4年度	機能訓練	2	0	0	4	0	2	5	0	2	15
	生活訓練	2	0	0	4	0	0	0	0	3	9
	合計	4	0	0	8	0	2	5	0	5	24
令和5年度	機能訓練	0	0	0	2	0	0	2	1	0	5
	生活訓練	0	1	0	2	0	0	0	0	1	4
	合計	0	1	0	4	0	0	2	1	1	9

*複数該当する場合はそれぞれに計上

地域リハビリテーション推進研修実施状況

令和3年度				令和4年度				令和5年度			
内容	定員	実績	対定員実績率	内容	定員	実績	対定員実績率	内容	定員	実績	対定員実績率
【講座】											
利用者や「はたらく」地域につながる・実現までのプロセス	80	34	△ 46	障害福祉サービスと介護保険サービス 今こそ「マインドフルネス」	80	68	△ 12	障害福祉サービスと介護保険サービス	80	-	-
成人脳性麻痺の方の身体機能低下を防ぐ	80	24	△ 56	分身ロボット「OnTime」による新たな働き方、社会とのつながり方について	80	35	△ 45	支援者のストレスマネジメント	80	52	△ 28
精神障害④薬物療法と生活支援	100	133			80	31	△ 49	認知症の理解と支援	80	-	-
精神障害①気分障害	100	141		精神障害のある方とその家族への支援	100	75	△ 25	神経難病の方の、疾患の進行に伴う在宅支援の実際	80	-	-
精神障害⑤ひきこもり	100	116		精神疾患の薬物療法	80	89	9				
精神障害③統合失調症	100	141		気分障害の理解と支援	80	101	21				
精神障害②アルコール依存症	100	115									
高齢者に多い低栄養とは？予防と改善方法について	80	33	△ 47	統合失調症の理解と支援	80	108	28	精神疾患の薬物療法	80	92	12
				依存症の理解と支援	80	86	6	気分(感情)障害の理解と支援	80	121	41
				健康的な生活を支えるリハビリテーション栄養	80	34	△ 46	ひきこもりの理解と支援	100	-	-
								統合失調症の理解と支援	80	104	24
				高齢者の特性に合わせたフレイル・サルコペニア予防のためのトレーニング	80	30	△ 50	嗜好(しへき)と依存	80	91	11
重症心身障がい児・者の排泄・呼吸器ケアについて	80	26	△ 54		80	27	△ 53	在宅生活を支える栄養管理のポイント	80	-	-
								自立支援に繋げる福祉用具の選定と適切な支援の方法	80	-	-
健康の鍵！オーラルフレイルとその対応	80	28	△ 52	健康の維持に必要な口腔ケアの実践	80	27					
営業でのコミュニケーションが難しい子への支援～支援機器～	80	80	0	自閉スペクトラム症の特性に配慮した会話支援	80	95	15	重症心身障がい児・者の排泄・呼吸器ケアについて	30	22	△ 8
知っておきたい発達障害の基礎知識	80	110	30	これだけは知っておきたい発達障害の基礎知識	80	106	26	医療的ケア児の理解と支援	80	42	△ 38
								高齢者のために摂食・嚥下機能支援の実際	80	40	△ 40
								ことばのキャッチボールに必要なこと	80	-	-
								まずはここから！発達障害入門	80	95	15
								発達障害をポジティブに生きる	80	-	-
発達障害・知的障害のある子への性教育について	80	67	△ 13	発達障害・知的障害のある子どもへの性教育の進め方	80	65	△ 15				
重症心身障害児・者のポジショニングについて	80	57	△ 23	自分で姿勢を変えることが難しい方のポジショニングについて	80	28	△ 52	ベッド上のポジショニングと姿勢ケアの基本	24	-	-
強度行動障害の理解と支援の実際	80	34	△ 46	発達障害のある方の「問題」といわれる行動」への適切な理解と支援	80	95	15	強度行動障害の背景の理解と支援の実際	80	-	-
ペアレントトレーニング	80	58	△ 22	ペアレントトレーニング	80	66	△ 14	発達障害の子を持つ親を支えるために大切なこと	80	117	37
発達障害のある児の感覚の問題について	80	122	42	生活や遊びの中で耳を使おう～発達に課題のある幼児期の子どもさんへの取組より～	80	63	△ 17	DCDIに対する理解と支援	30	-	-
「ユマニチュード」のコミュニケーション技法とその効果	80	45	△ 35	脳障害(高次脳機能障害・発達障害・認知症)を理解するっ!!	80	101	21	脳障害(高次脳機能障害・発達障害・認知症)を理解するっ!!	80	-	-
合計(18講座)	1,540	1,364	△ 176	合計(20講座)	1,620	1,330	△ 290	合計(22講座)	1624	776	△ 848

注1) 研修会場は、地域リハビリテーション推進センター研修室、又は、ラポール京都

注2) オンライン (Zoom) 研修も開催

注3) 定員数のみ記載している内容は、令和5年10月以降に開催予定

別紙1

地域リハビリテーション推進研修実施状況

(令和5年9月30日現在)

【実習】

令和3年度			令和4年度			令和5年度					
内容	定員	実績	対定員実績差	内容	定員	実績	対定員実績差	内容	定員	実績	対定員実績差
現場で役立つ！介助法 ～移乗編～	4	3	△ 1	現場で役立つ！介助法 ～移乗編～	18	28	10	現場で役立つ！介助法 ～移乗編～	12	15	3
現場で役立つ！介助法 ～ベッド上移動・起き上がり編～	4	0	△ 4	現場で役立つ！介助法 ～ベッド上移動・起き上がり編～	6	9	3	現場で役立つ！介助法 ～ベッド上移動・起き上がり編～	6	7	1
現場に活かす！機能維持体操 ～座位でできる集団体操編～	8	0	△ 8	現場に活かす！機能維持体操 ～座位でできる集団体操編～	12	7	△ 5	現場に活かす！機能維持体操 ～座位でできる集団体操編～	12	16	4
現場に活かす！機能維持体操 ～臥位でできる個別運動編～	4	0	△ 4	現場に活かす！機能維持体操 ～臥位でできる個別運動編～	6	4	△ 2	現場に活かす！機能維持体操 ～臥位でできる個別運動編～	12	16	4
合計(4講座)	20	3	△ 17	合計(4講座)	42	48	6		42	54	12

注1)令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加者を同一施設職員に限定し、御希望の会場に出向く、訪問型で通年開催

注2)令和4年度は、地域リハビリテーション推進センター研修室で開催日を決めて実施する「会場型」と、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加者を同一施設職員に限定し、

御希望の会場に当センター専門職員が出向き通年開催する「出講型」で実施

発達障害
精神障害
認知症
医療的ケア
高次脳機能障害
フレイル

and more...



講座



令和5年度
京都市地域リハビリテーション

推進研修



実
習



移乗方法
ベッド上移動
起き上がり
集団体操
個別運動



京都市
CITY OF KYOTO

京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



講座プログラム（会場＋オンライン）

ハイブリッドでの
研修です！

	日 程	時 間	テーマ 講師
1	7月3日(月)	9:30～11:00	支援者のストレスマネジメント ～働きやすい職場づくりのために～ 龍谷大学 短期大学部 社会福祉学科 教授 松田 美智子 氏
2	7月10日(月)	9:30～11:30	まずはここから！発達障害入門 京都市発達障害者支援センター「かがやき」センター長 京都市児童福祉センター 児童精神科医師 村松 陽子
3	9月6日(水)	13:30～15:00	精神疾患の薬物療法 ～薬との上手なつきあい方を支援するために～ ★ 京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医 波床 将材
4		15:20～16:50	嗜癖(しへき)と依存 ～さまざまな依存症治療へのプロセス～ ★ 安東医院 院長 精神科医 安東 毅 氏
5	9月7日(木)	9:30～11:30	発達障害の子を持つ親を支えるために大切なこと 鳥取大学 大学院医学系研究科 臨床心理学専攻 臨床心理学講座 教授 井上 雅彦 氏
6	9月21日(木)	10:00～11:30	医療的ケア児の理解と支援 ～医療的ケア児の保育実践から～ NPO法人 i-care kids京都 代表理事 藤井 蒔 氏
7	9月22日(金)	13:30～15:00	気分(感情)障害の理解と支援 ～こころの健康問題を正しく理解するために～ ★ 京都市こころの健康増進センター 相談援助課 担当係長 精神科医 小林 祐子
8		15:20～16:50	統合失調症の理解と支援 ～治療をしながら社会参加や自立をめざすために～ ★ 京都大学 大学院医学研究科 脳病態生理学講座 助教 精神科医 杉田 尚子 氏
9	9月28日(木)	13:30～15:00	高齢者のための摂食・嚥下機能支援の実際 ● 京都リハビリテーション病院 言語聴覚士 徳島 大樹 氏
10	10月6日(金)	9:30～11:30	強度行動障害の背景の理解と支援の実際 社会福祉法人 南山城学園 地域福祉支援センター 島本 センター長 奥村 一貴 氏
11	10月12日(木)	9:30～11:30	発達障害をポジティブに生きる ～それぞれの視点から見た景色～ 精神保健福祉士 社会福祉士 神戸市発達障害ピアカウンセラー 笹森 理絵 氏
12		13:30～15:00	認知症の理解と支援 ～西院デイサービスでの取組から～ ● 社会福祉法人 京都福祉サービス協会 高齢者福祉施設 西院 作業療法士 田端 重樹 氏
13	10月16日(月)	10:00～11:30	在宅生活を支える栄養管理のポイント ● 大阪夕陽丘学園短期大学 食物栄養学科 准教授 滋賀県立総合病院 管理栄養士 高嶋 典子 氏
14	10月19日(木)	13:30～15:00	神経難病の方の、疾患の進行に伴う在宅支援の実際 塚本医院 院長 内科・小児科医 塚本 忠司 氏
15	10月27日(金)	13:30～15:30	自立支援に繋げる福祉用具の選定と適切な支援の方法 ● 住まいと介護研究所 所長 理学療法士 主任介護支援専門員 谷口 昌宏 氏
※ 16	11月2日(木)	13:30～16:30	ひきこもりの理解と支援 ～人と人との関係性の再構築に向けて～ ★ 京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医 波床 将材
17	11月8日(水)	13:30～15:30	脳障害(高次脳機能障害・発達障害・認知症)を理解するっ!! Season2 ◆ 小石川東京病院 精神科 副院長 精神科医 丹治 和世 氏 京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科 言語聴覚専攻 教授 精神科医 上田 敬太 氏

	日 程	時 間	テーマ 講師
18	11月17日(金)	13:30~15:30	障害福祉サービスと介護保険サービス ～初めての支援に分かりやすい、制度の併用と連携～ 京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター コーディネーター 奥田 敏雄 氏 ●
19	11月29日(水)	9:30~11:30	ことばのキャッチボールに必要なこと ～自閉スペクトラム症の特性に配慮した会話支援～ 実践女子大学 大学院生活科学研究科 教授 言語聴覚士 公認心理師 長崎 勤 氏

※ 会場は、「京都市地域リハビリテーション推進センター 1階研修室」で、定員は80名(会場30名、オンライン50名)です
(16の講座を除く)。

※ 16の講座のみ、会場は「ラポール京都 2階 大ホール(当センター西隣)」で、定員は100名(会場50名、オンライン50名)です。

★印は「京都市こころの健康増進センター」との共催

●印は「京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室」との共催

◆印は「京都市高次脳機能障害者支援センター」との共催

会場のみの実施に
ないます！
(オンラインでは
実施しません。)

講座プログラム (会場のみ)

	日 程	時 間	テーマ 講師
20	8月30日(水)	9:30~11:30	重症心身障がい児・者の排痰・呼吸器ケアについて 京都橘大学 健康科学部 理学療法学科 教授 理学療法士 堀江 淳 氏
※ 21	11月9日(木)	13:30~16:30	ベッド上のポジショニングと姿勢ケアの基本 社会福祉法人 京都福祉サービス協会 人材マネジメント室 人事部 人材研修センター 研修担当部長 理学療法士 神内 昭次 氏
22	11月20日(月)	9:30~11:30	DCDに対する理解と支援 ～生活や遊びの中での生活動作の教え方～ 株式会社 児童発達支援協会 リハビリ発達支援ルームかもん 代表 作業療法士 鴨下 賢一 氏

※ 会場は、「京都市地域リハビリテーション推進センター 1階研修室」で、定員は30名です。

※ 21の講座は、会場設定の都合により、定員は24名です。

実習プログラム

ご希望の場所まで
出講もします！
定員6名。

講師は、当センターの理学療法士、作業療法士です。

	日 程	時 間	テーマ
1	6月29日(木)	9:30~11:00	現場で役立つ！介助法「移乗編」
2	7月6日(木)	9:30~11:00	現場で役立つ！介助法「ベッド上移動・起き上がり編」
3	7月13日(木)	9:30~11:00	現場に活かす！機能維持体操「座位でできる集団体操編」
4	7月26日(水)	9:30~11:00	現場に活かす！機能維持体操「臥位でできる個別運動編」

※ 会場は、「京都市地域リハビリテーション推進センター 1階研修室」で、定員は6名です。

※ 実習には、当センターで実施する上記「会場型」のほかに、ご準備いただいた会場に出向く「出講型」があります。

※ 「出講型」の内容は、「会場型」と同じです。「実習の詳細」をご覧ください。

講座の詳細(会場とオンライン)

1. 支援者のストレスマネジメント ～働きやすい職場づくりのために～

7月3日(月) 9:30～11:00

講師：松田 美智子 氏
龍谷大学 短期大学部 社会福祉学科 教授

福祉・介護の対人援助職は、「頭脳労働」「肉体労働」に加え、自身の気持ちを抑えながら利用者をケアする「感情労働」という要素が大きいので、メンタル面での不調を抱えやすい職種と言われています。

本講座では、働きやすい職場づくりや、よりよい援助の提供に活用いただくために、福祉職が抱えやすいストレスとその対処法について学びます。

2. まずはここから！発達障害入門

7月10日(月) 9:30～11:30

講師：村松 陽子
京都市発達障害者支援センター「かがやき」センター長
京都市児童福祉センター 児童精神科医師

本講座では、発達障害についての基本的な知識を整理し、理解を深めます。発達障害のある方は、どのような場面で困難さを感じ、どのような場面で力を発揮することができるのでしょうか。発達障害のある方たちの行動面や心理面の問題に対してどのような対応をすればよいのか、特性に合わせた関わり方の工夫や日常の支援の具体的な対応などについて、事例を通してお話しします。

※ 9月7日、10月6日、11月20日、11月29日の講座は、受講者の方々が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講をお考えの方は、本講座を先に受講されることをお勧めします。

3. 精神疾患の薬物療法 ～薬との上手な付き合い方を支援するために～

9月6日(水) 13:30～15:00

講師：波床 将材
京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医

精神障害のある方は、適切な薬物療法を継続することによって症状のコントロールが可能となる場合が多いことから、薬と上手につきあっていくことが、安定した生活を送る上で重要になります。

本講座では、薬の効果や副作用、服薬が難しくなる原因など、薬物療法の基本的な知識について学びます。

講座の詳細(会場とオンライン)

4. 嗜癖(しへき)と依存 ～さまざまな依存症治療へのプロセス～

9月6日(水) 15:20～16:50

講師：安東 毅 氏
安東医院 院長 精神科医

依存症は、飲酒や薬物使用などのコントロールが出来なくなる「病気」であり、きちんとした治療を受けることで回復が可能です。しかし、本人が、病気であることを認めないことが多く、また、周囲の人も「本人の性格の問題」、「本人の意思が弱い」などと考えて、本人を責めることになりがちのため、治療につながりにくいケースも少なくありません。

この講座では、アルコール・ギャンブル・薬物依存症について正しく理解し、治療に結びつけていくために、医療機関との連携や、本人・家族の支援について学び、事例を通して理解を深めます。

5. 発達障害の子を持つ親を支えるために大切なこと

9月7日(木) 9:30～11:30

講師：井上 雅彦 氏
鳥取大学 大学院医学系研究科 臨床心理学専攻
臨床心理学講座 教授

発達障害のある子どもは、対人関係や行動に対して様々な特性があることが多く、保護者は、日々戸惑いと葛藤を感じながら子育てをしています。保護者に対しても適切な支えがないと現実の我が子と向き合うことができないことがあります。本講座では、発達障害のある子どもを持つ保護者の悩みにどのように寄り添い支援すればいいのか、支援方法の一つのABA（応用行動分析）の概要や家族支援の必要性、子どもとのより良い関わり方のポイントについて、事例を交えてお話していただきます。

参考図書：「発達が気になる幼児の親面接：支援者のためのガイドブック」金子書房 2019

※ 会場では、講師が遠隔地からzoomで行う講義を上映する予定です。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月10日(月)開催予定の「まずはここから！発達障害入門」を事前に受講されることをお勧めします。

6. 医療的ケア児の理解と支援 ～医療的ケア児の保育実践から～

9月21日(木) 10:00～11:30

講師：藤井 路 氏
NPO法人 i-care kids京都 代表理事

法人が運営し、医療的ケア児を積極的に受け入れている、小規模保育園キコレの実践から、医療的ケア児の保育の実践、家族支援についてお話いただきます。

また、医療的ケア児の心身の状況に応じた適切な保健、医療、福祉サービスの提供や、その他各関係機関との連携体制の在り方などについても考えます。

講座の詳細(会場とオンライン)

7. 気分(感情)障害の理解と支援 ～こころの健康問題を正しく理解するために～

9月22日(金) 13:30～15:00

講師：小林 祐子

京都市こころの健康増進センター 相談援助課
担当係長 精神科医

「気分障害」とは、うつ病や躁うつ病など、気分や感情に変化があるために生活に支障をきたしている精神疾患のことを指します。「うつ病」については、近年その概念に広がりが見られ、患者数が増加するとともに、状態像がきわめて多様化しています。一方、うつ状態と活力に溢れた状態を繰り返す「躁うつ病」と診断される方も、同様に増加傾向にあり、身近な疾患となりました。

本講座では、これら気分障害に関する基礎知識や、気分障害をお持ちの方への関わり方などについて、事例を交えてお話しします。

8. 統合失調症の理解と支援 ～治療をしながら社会参加や自立をめざすために～

9月22日(金) 15:20～16:50

講師：杉田 尚子 氏

京都大学 大学院医学研究科 脳病態生理学講座
助教 精神科医

統合失調症は、約100人に1人がかかる身近な疾患です。適切な治療やリハビリテーションの継続により、病気とつきあいながら就労されている方や安定した生活を送っておられる方もたくさんおられます。一方で、再発しやすいため、症状が落ち着いていても治療を継続していくことが重要です。

この講座では、基本的な症状や経過、治療やリハビリテーション、日常生活場面での具体的な関わり方や支援の方法などについて、事例も交えてお話していただきます。

9. 高齢者のための摂食・嚥下機能支援の実践

9月28日(木) 13:30～15:00

講師：徳島 大樹 氏

京都リハビリテーション病院 言語聴覚士

食べる、噛む、飲み込むといった口腔機能の低下は、身心機能の低下やフレイルの原因になりますが、適切な支援により改善や予防が可能です。

本講座では、生活期の支援に多く関わるリハビリテーション（言語聴覚士）の視点で、摂食・嚥下機能の支援の実践について、事例を交えて分かりやすくお話していただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

10. 強度行動障害の背景の理解と支援の実際

10月6日(金) 9:30～11:30

講師：奥村 一貴 氏
社会福祉法人 南山城学園
地域福祉支援センター 島本 センター長

行動障害はある日突然、強度行動障害となったわけではなく、特性を持っているがゆえに経験しやすい出来事や環境による影響を受けながら成長することで、困難がより深まっていったという見方があります。そのため、障害特性に基づく適切な支援を行うことで、安定した日常生活を送れるようになるとも言われています。

本講座では、強度行動障害が起こる背景を理解し、安心して穏やかに過ごしていくためにはどうしたらよいか、適切な支援や関わり方など事例を交えてお話していただきます。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月10日(月)開催予定の「まずはここから！発達障害入門」を事前に受講されることをお勧めします。

11. 発達障害をポジティブに生きる ～それぞれの視点から見た景色～

10月12日(木) 9:30～11:30

講師：笹森 理絵 氏
精神保健福祉士 社会福祉士
神戸市発達障害ピアカウンセラー

講師は、32歳のときに発達障害の診断を受けた当事者で、また3人の発達障害があるお子さんの子育てもされている保護者でもあります。さらに、精神保健福祉士や社会福祉士の資格も取得されており、神戸市の発達障害ピアカウンセラーとして地域の方を支える支援者でもあります。

本講座では、当事者・保護者・支援者というさまざまな視点をお持ちの講師から、発達障害の特性の理解や対応について分かりやすく解説していただくとともに、これまで経験されたことなどをエピソードを通して、具体的にお話していただき、発達障害の理解を深めます。

12. 認知症の理解と支援 ～西院デイサービスでの取組から～

10月12日(木) 13:30～15:00

講師：田端 重樹 氏
社会福祉法人 京都福祉サービス協会
高齢者福祉施設 西院 作業療法士

現在、日本では約460万人(65歳以上の高齢者の約15%)が認知症を患っているとされています。今後も高齢化が進むにつれ、認知症の方が増えていくことが予想されており、誰でもなりうることから、認知症への理解を深め、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる「共生」

(認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きるという意味)の社会を創っていくことが重要です。

本講座では、認知症の中核症状や周辺症状について理解を深め、西院デイサービスでの取組を通して、支援の実際について学びます。

講座の詳細(会場とオンライン)

13. 在宅生活を支える栄養管理のポイント

10月16日(月) 10:00～11:30

講師：高嶋 典子 氏

大阪夕陽丘学園短期大学 食物栄養学科 准教授
滋賀県立総合病院 管理栄養士

在宅生活を送る上で栄養管理が必要なケースの栄養アセスメントの流れや、具体的な支援の事例を通して、栄養の視点からできる多職種の関わりについてお話していただきます。

また、ケアマネジャーをはじめとする支援者に、気にかけてほしい栄養管理の実際について、事例をもとにお話していただきます。

14. 神経難病の方の、疾患の進行に伴う在宅支援の実際

10月19日(木) 13:30～15:00

講師：塚本 忠司 氏

塚本医院 院長 内科・小児科医

ALS（筋萎縮性側索硬化症）などの神経難病は、病勢の進行に伴い、在宅療養を維持するために、症状に合わせて、公的な介護や住宅改修、リハビリテーション、各種機器の導入などさまざまな支援が必要となり、在宅医療・介護の連携が必須となります。

この講座では、長年にわたり地域医療に携わっておられる医師から、支援されるALSなどの神経難病を中心に、疾患の特徴や症状、治療、支援の実際についてお話していただきます。また、事例を交えて地域支援の現状と難病者が抱える課題などについても考えます。

15. 自立支援に繋げる福祉用具の選定と適切な支援の方法

10月27日(金) 13:30～15:30

講師：谷口 昌宏 氏

住まいと介護研究所 所長 理学療法士
主任介護支援専門員

福祉用具選定のポイントや、用具を使った適切な支援の方法についてお話していただくとともに、選定した福祉用具を再選定する「旬」を見極めるポイントなどについても、経験豊富な講師にデモンストレーションを交えながらお話していただきます。

また、よく使用される福祉用具（手すり、スロープ、歩行器、歩行補助つえ、特殊寝台、車椅子など）だけでなく、知っておくとお得なものや、その使用方法についても紹介していただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

16. ひきこもりの理解と支援 ～人と人との関係性の再構築に向けて～

11月2日(木) 13:30～16:30

講師：波床 将材

京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医

「ひきこもり」は、単一の疾患や障害の概念ではなく、その実態は多種多様です。一方で、適切な関係機関と連携し、ひきこもっている方それぞれの問題を整理することで、支援の糸口が見えてくることもあります。

本講座では、ひきこもり支援のために必要な基礎知識と支援の実際について学びます。

17. 脳障害(高次脳機能障害・発達障害・認知症)を理解するっ!! Season2

11月8日(水) 13:30～15:30

講師：丹治 和世 氏

小石川東京病院 精神科 副院長 精神科医

講師：上田 敬太 氏

京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科
言語聴覚専攻 教授 精神科医

脳の機能不全の臨床に長年携わっておられるお二人の医師から、高次脳機能障害、発達障害、認知症それぞれの障害や症例について分かりやすくレクチャーしていただくとともに、事例を基にして、対談形式で現場に即した対応方法なども深めていただきます。

今回登壇いただく丹治先生は、東北大学、山形大学などで神経内科医として高次脳機能障害について診療経験を積まれたのち、昭和大学烏山病院、山形県立こころの医療センターを経て、現在は精神科医として成人発達障害の診療に携わっておられますので、高次脳機能障害と関連づけた成人の発達障害についてもお話していただきます。

18. 障害福祉サービスと介護保険サービス

～初めての支援に分かりやすい、制度の併用と連携～

11月17日(金) 13:30～15:30

講師：奥田 敏雄 氏

京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター
コーディネーター

第一部では、昨年度に引き続き、各地域の地区医師会が設置・運営している、医療・介護・福祉の専門職を対象とした支援機関である「在宅医療・介護連携支援センター」のコーディネーターから、制度の理解や、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行や併用など、連携へのアドバイスや事例を通して、よりよい支援を行うために役立つ情報を提供していただきます。

また、第二部では、会場で受講される方のみ、グループワークで、事例を通じた意見交換や情報交換の場を設ける予定です。

※ 第二部は会場のみで、オンラインでは行いません。

講座の詳細(会場とオンライン)

19. ことばのキャッチボールに必要なこと ～自閉スペクトラム症の特性に配慮した会話支援～

11月29日(水) 9:30～11:30

講師：長崎 勤 氏
実践女子大学 大学院生活科学研究科 教授
言語聴覚士 公認心理師

一方的なやりとりになったり、相手の気持ちが分かりにくいなどの言語発達を示すことが多い自閉スペクトラム症の子どもとの意思疎通は難しく、気持ちの引き出し方やくみ取り方はどうしたらいいのか、どのように支援していけばいいのかなど、日々現場で悩まれている方は多いのではないのでしょうか。

本講座では、長年、言語発達、特に子どものナラティブ（語り）の発達と支援について研究してこられた講師に、自閉スペクトラム症の子どもの会話特性とその支援について、事例を通してお話していただきます。

※ 会場では、講師が遠隔地からzoomで行う講義を上映する予定です。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月10日（月）開催予定の「まずはここから！発達障害入門」を事前に受講されることをお勧めします。

講座の詳細(会場のみ)

20. 重症心身障がい児・者の排痰・呼吸器ケアについて

8月30日(水) 9:30～11:30

講師：堀江 淳 氏

京都橘大学 健康科学部 理学療法学科
教授 理学療法士

前半は、排痰・呼吸器ケアに必要な呼吸障害の基礎、症状や特徴、変形や拘縮、側弯のある方への対応などについて、解説していただきます。

後半には、聴診の仕方や姿勢の整え方、呼吸介助、スクイーミング、体位排痰法などについて、実技やデモンストレーションを通して体験していただきます。

※ 会場での受講のみになります。

※ 実技中心の講座です。動きやすい服装でお越しください。

21. ベッド上のポジショニングと姿勢ケアの基本

11月9日(木) 13:30～16:30

講師：神内 昭次 氏

社会福祉法人 京都福祉サービス協会 人材マネジメント室
人事部 人材研修センター 研修担当部長 理学療法士

寝たきりの高齢者に関節拘縮が生じるメカニズムや、ベッド上で安楽な臥位姿勢を保持するためのポジショニング、通所サービスでも実践できる姿勢ケアのポイントについて、解説していただきます。

また、ベッド上で安楽な臥位姿勢を保つためのポジショニングの基本と、バリエーションについて、実技を通して体験していただきます。

※ 会場での受講のみになります。

※ 実技中心の講座です。動きやすい服装でお越しください。

22. DCDに対する理解と支援～生活や遊びの中での生活動作の教え方～

11月20日(月) 9:30～11:30

講師：鴨下 賢一 氏

株式会社児童発達支援協会

リハビリ発達支援ルームかもん 代表 作業療法士

DCD（発達性協調運動症）とは発達障害の一種で、DCDの方は、身体機能に問題がないにもかかわらず、はさみや食器の使用、書字、スポーツがうまくできないなど、協調された運動スキルの獲得や使用が困難となり、学校生活、遊びなどの日常生活活動にも影響が生じてしまいます。

本講座では、いわゆる「不器用」といわれるDCD児の生活動作について、うまくできない原因や発達段階に応じた具体的な支援方法などを、療育での事例を通してお話していただきます。

※ 会場での受講のみになります。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月10日(月)開催予定の「まずはここから！発達障害入門」を事前に受講されることをお勧めします。

実習の詳細

＜会場型＞ 講師は、当センターの理学療法士・作業療法士です。

1. 現場で役立つ！介助法「移乗編」

6月29日(木) 9:30～11:00

立ち上がりや方向転換など、移乗に関連する動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたさまざまな種類の移乗方法などについて学びます。

2. 現場で役立つ！介助法「ベッド上移動・起き上がり編」

7月6日(木) 9:30～11:00

ベッド周囲の動作（臥位での上方移動や側方移動、寝返り、起き上がりなど）の動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたよりよい介助方法について学びます。

3. 現場に活かす！機能維持体操「座位でできる集団体操編」

7月13日(木) 9:30～11:00

主に高齢者を対象にした集団体操について、より効果的かつ安全に実施する方法について学びます。

4. 現場に活かす！機能維持体操「臥位でできる個別運動編」

7月26日(水) 9:30～11:00

障害のある方や高齢者が定期的に身体を動かすことの重要性和、日々の支援の中に取り入れることができる個別運動について学びます。

＜出講型＞

内容は、＜会場型＞1～4と同じです。会場と以下の物品を準備してください。

※受付期間は、令和5年度末までです。

実習1：ベッド1台、車椅子2台

（ベッドと車椅子がない場合は、椅子4～6脚（肘掛なし）で代用可能）

実習2：ベッド1台（ベッドがない場合は、床にマットで代用可能）

実習4：床に敷くマット（参加人数の半分の数：ペアになって実習を行います。）

全実習共通：椅子人数分（講義時に使用）

※日程や会場の広さ、定員等については、お気軽にご相談ください。

令和5年度 京都市地域リハビリテーション推進研修実施要領

1 目 的

本研修は、リハビリテーションに関連する知識及び介護技術等の向上を目的とした研修を行うことにより、本市における地域リハビリテーションの推進及び充実を図るとともに、福祉・介護サービス等の質の向上に資することを目的とします。

2 受講対象者

次のいずれかに該当している方

- (1) 次に定める事業に従事する市内事業所の職員
 - ア 障害者総合支援法による障害福祉サービス等及び相談支援
 - イ 児童福祉法による障害児入所支援及び障害児通所支援
 - ウ 介護保険法による居宅サービス事業所、地域密着型サービス事業所、居宅介護支援事業所、介護予防サービス事業所、地域密着型介護予防サービス事業所、介護保険施設、介護予防・日常生活支援総合事業の第一号事業に係る指定事業所及び地域包括支援センター
- (2) 市内の総合支援学校及び育成学級等に勤務している教職員
- (3) 障害者の支援に関する業務に従事している本市職員
- (4) 障害者の支援等を行っている市内団体等に所属する方
- (5) 障害者雇用を進める企業に所属する方等
- (6) その他、研修内容に応じて、市長が認める方

京都市地域リハ推進研修

検索



3 日程及び内容

プログラムを御参照ください。

(当センターのホームページでも御確認いただけます。)

(センターホームページ)

4 受講形態

講座：会場での受講、又は、オンラインでの受講（注：会場のみの講座があります。）

実習：会場型（当センターで実施）、又は、出講型（受講者側が準備した会場で実施）

5 会場及び定員

プログラムを御参照ください。

6 受講料：無 料

（出講型の実習で、会場に関わる費用が発生する場合は、受講者側で御負担ください。）

7 申込方法

以下の各申込フォームからお申込みください。

〔 講座を会場で受講する場合、及び、実習の場合は、FAXでも申し込めます。
FAX用申込様式は、ホームページからダウンロードできます。 〕

* 申込受付後、メール等で申込受理の連絡を行います。申込後、数日経っても連絡がない場合は、必ずお問い合わせください。

* 1つの端末で複数名が講座をオンライン受講される場合にも、1名ずつ申込みが必要です。

講座（7月～9月開催分）申込フォーム 申込期間：令和5年5月29日～9月26日

https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=6778

講座（10月～11月開催分）申込フォーム 申込期間：令和5年9月1日～11月27日

https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=6782

実習（会場型）申込フォーム：https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=6780

実習（出講型）申込フォーム：https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=6779

講座

(7月～9月)

申込フォーム



講座

(10月～11月)

申込フォーム



実習(会場型)

申込フォーム



実習(出講型)

申込フォーム



8 申込締切：各開催日の2開庁日前（ただし、先着順で定員に達し次第、締め切ります。） 出講型の実習は、希望される日の1か月前までに申し込んでください。

締切後も、受講枠に空きがある場合は申込みを受け付けますので、お問い合わせください。

9 留意事項

- (1) やむを得ず欠席される場合は、受講形態に限らず必ず事前に御連絡ください。
- (2) 会場で講座を受講される方のうち、聴覚障害により手話通訳等が必要な方は、各講座の2週間前までに御連絡ください。
- (3) 会場へは、公共交通機関を御利用ください。特別な理由があり、車での来場が必要な場合は、事前に御相談ください。
- (4) 各研修開始3時間前の時点で、京都市に「暴風警報」又は「特別警報」が発令されている場合は、会場開催、オンライン開催ともに中止します。各自で御確認ください。
- (5) 研修会場は、細やかな温度調整ができません。衣類などで調整できるよう必要に応じて御準備ください。
- (6) 講座をオンラインで受講される場合は、インターネット接続が可能なパソコン等の端末、回線、及び、Zoomアプリケーションを御準備ください。（通信料は受講者負担）
*開催2日前を目途に、Zoom視聴用ID、講義資料等を、申込時に記載いただいたアドレスに送信します。
*セキュリティリスクを防ぐため、フリーWi-Fiでの接続は避けてください。
*インターネットへの接続環境や技術的な障害によって、研修中に接続が切れる可能性があります。
*当日、個別の操作説明や接続トラブルへの対応はできませんので、御了承ください。
- (7) その他、受講に際しての注意事項

以下に該当する事項は、固くお断りいたします。該当する行為が発見された場合は、御退場いただきます。また、講義内容の盗用が発覚次第、講師の著作権・肖像権侵害として厳重に対処します。

- ・講義の録画、録音、撮影 ・資料の二次利用 ・講義の詳細内容のSNS等への投稿
- ・ZoomのID及びパスワードの無断共有（オンライン受講の場合）

10 当センターへのアクセス、問合せ先



※四條烏丸から

市バス（3、8、11、13、特13、26、29、91、203系統）
で「四條御前通」下車すぐ

※京都駅から

市バス（26、28、71系統）で「四條御前通」下車すぐ
※「阪急西院駅」「嵐電西院駅」下車、東へ徒歩3分

発行
・
問合せ先

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町 30
京都市地域リハビリテーション推進センター相談課
TEL 075-823-1666 FAX 075-842-1541 E-Mail rehabili-chiiki@city.kyoto.lg.jp
(受付時間：土、日、祝日を除く午前8：30～午後5：00)
令和5年5月発行 京都市印刷物 第053049号

(お知らせ)

地域リハビリテーション推進センターは、令和6年1月(予定)に移転します。

<移転先> 京都市中京区壬生東高田町1番地の20 (京都市立病院北側)

京都市障害福祉サービス事業所等訪問支援事業

リハビリ専門職員が訪問し、支援者の方のご相談に応じます！

利用者の方にこんな困りごとはありませんか？



■ 加齢に伴う身体機能の低下について

今までできていた動作が難しくなってきた

「動作方法や介助方法を工夫したい」

「手すりの設置など環境調整について教えてほしい」

「利用者の方に合った運動プログラムが知りたい」



■ 歩くことについて

転倒やふらつくことが増えてきた

「歩行時の介助方法を知りたい」

「機能を維持するための訓練方法を教えてほしい」

「どんな杖や歩行器が利用できるか知りたい」



■ 食事中の困りごとについて

最近食事にむせるんです

「食物形態、盛り付け方、一口量、食べるペースなどについて知りたい」

「食事姿勢や介助方法の工夫について教えてほしい」

「誤嚥性肺炎を予防するためにはどうしたらいいか教えてほしい」



■ 移乗について

「車椅子からトイレへの移乗の仕方を知りたい」

「送迎車への乗り降りの方法を知りたい」



■ その他

- ・ 訪問型体力測定(定期的に体力を測定し、身体機能維持に役立てる)
- ・ 休息時、作業時などの姿勢調整
- ・ 段差解消や手すりの設置など住環境についての相談
- ・ 障害のある方とのよりよいコミュニケーション方法 など

障害福祉サービス事業所等訪問支援事業とは

当センターの理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職員が、市内の事業所や居宅を訪問し、支援者の方に、利用者個々の身体状況の把握や介助等への対応方法、機能維持のための活動プログラムの導入など、さまざまな困りごとへの助言を行っています。(過去5年間の実績: 約300件)

※ 継続的なリハビリテーションを提供するものではありません。

※ 状況によっては、医療機関の受診をおすすめする場合があります。



■ 相談件数・実施時間

1回の訪問につき、1名あたり概ね1時間程度です。
訪問型体力測定は、1回の訪問につき最大6名まで可能です。

利用は
無料です!

■ 利用対象

市内の事業所等の支援者

- 障害福祉サービス事業所 (生活介護、共同生活援助、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、居宅介護、相談支援、児童発達支援、放課後等デイサービス、施設入所支援など)
- 介護保険サービス事業所 (居宅サービス事業、介護福祉施設、地域包括支援センターなど)

利用の流れ

- (1) ホームページから<申込書・情報提供書>をダウンロードしてください。
- (2) <申込書・情報提供書>に必要事項を記入し、申し込んでください。(詳細は右の欄をご覧ください。)
- (3) 具体的な日程や内容を調整します。
- (4) センターから実施の決定を通知します。
- (5) センター職員が事業所等を訪問し、助言します。
- (6) 後日センターから報告書を送付します。



ホームページ

申込方法

◆ E-mailでのお申込み

ホームページから<申込書・情報提供書>をダウンロードし、必要事項を入力の上、メールで送信してください。メールの件名は【事業所訪問申込み】としてください。

※ 誤送信にご注意ください。

◆ FAXと郵送によるお申込み

ホームページから<申込書・情報提供書>をダウンロードし、必要事項を記入の上、<申込書>をFAXで、<情報提供書>を郵送で、それぞれお送りください。

※ <情報提供書>は、個人情報保護のため、FAXでは送らないでください。

※ 訪問を希望される日の2週間前までに申し込んでください。

京都市訪問支援事業

で 検索



■ 問合せ・申込先

京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30

TEL: 075-823-1666 FAX: 075-842-1541

E-mail[申込み専用] rehabili-chiiki@city.kyoto.lg.jp



センターのFacebookです。
ぜひご登録ください。



「京都市障害福祉サービス事業所等訪問支援事業」の調査報告書を掲載しています。



京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
(令和5年8月発行)
京都市印刷物 第054424号

(お知らせ)

地域リハビリテーション推進センターは、令和6年1月（予定）に移転します。

<移転先> 京都市中京区壬生東高田町1番地の20（京都市立病院北側）

地域ガエルのお出かけ講座のお知らせ

専門職員がお住まいの地域に出向いてお話しします！！

1 お出かけ講座について

京都市地域リハビリテーション推進センターの専門職員（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、高次脳機能障害支援コーディネーター等）が、お住まいの地域に出向き、リハビリテーションに関連する知識や技術の向上、高次脳機能障害者支援の拡大を目的とした講座を開催します。お気軽にお申込みください！！

2 対象

市内に在住、在学又は在勤する方が概ね5人以上集まる集会、市内の障害福祉サービス事業所等や医療機関等において概ね5人以上が集まる研修会を対象に講師を派遣します。



3 費用

無料（ただし、会場に関わる費用はご負担いただきます。）

地域ガエルは『地域に帰る』をモットーにしている当センターのキャラクターです。

4 内容

各テーマについて説明（概ね60分）と質疑（概ね10分）を行います。

*この講座は、地域リハビリテーションのより一層の推進や高次脳機能障害のある方への支援の拡大を目的に開催するもので、苦情や要望、個別の相談をお聞きする場ではありません。ご理解いただきますようお願いいたします。

5 テーマ

- ① 支援者の腰痛予防
～腰痛の基礎知識と健康管理（セルフケア）について～
- ② 支援者の腰痛予防
～福祉用具を用いた持ち上げない介助方法について（実習）～
- ③ 支援者の腰痛予防
～介助における身体の使い方や姿勢の工夫について～
- ④ 車椅子の移動介助の基本（実習）
～段差やスロープでの介助方法～
- ⑤ 高齢者の身体機能維持のポイント
- ⑥ 障害者の身体機能低下とその対処法について
- ⑦ 食事を安全にとるために（摂食・嚥下について）

- ⑧ 失語症の方とのコミュニケーション方法について
- ⑨ 身体障害のある方の特性とその配慮について
- ⑩ 高次脳機能障害について
～発症からのステップ（社会参加に向けて）～
- ⑪ 高次脳機能障害について
～注意障害・記憶障害・遂行機能障害について～
- ⑫ 高次脳機能障害について
～社会的行動障害について～
- ⑬ 高次脳機能障害について
～その症状と対応について～
- ⑭ 高次脳機能障害のある方の就労に必要なこと
- ⑮ 高次脳機能障害者支援センターでの相談支援について

6 申込方法

開催を希望される日の1か月前までに裏面の「地域ガエルのお出かけ講座事業申込書」を郵送又はFAX、電子メールにより送付してください。

7 申込み及び問合せ先

京都市地域リハビリテーション推進センター相談課（京都市中京区壬生仙念町30）

電話 075-823-1666 FAX 075-842-1541 申込専用アドレス rehab@citykyoto.jp

受付時間 月曜日～金曜日（祝日・年末年始除く）

8:30～12:00及び13:00～17:00



メールで申込まれる場合は、件名に必ず「お出かけ講座申込」とご記入ください。



京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
（令和5年8月発行）

京都市印刷物 第054423号

第1号様式（第4条関係）

地域ガエルのお出かけ講座事業申込書

（あて先）京都市地域リハビリテーション推進センター相談課長

		申込日		年 月 日	
団体名及び 代表者氏名					
連絡先 (申込者)	氏 名				
	住 所				
	電話番号 (携帯)	(— —)	FAX 番号	—	
	Eメールアドレス				
希望日時 *出講者の他の用 務等によりご希望 に添えない場合が ありますのでご了 承ください。	第1希望	月	日 ()	時	分
	第2希望	月	日 ()	時	分
	第3希望	月	日 ()	時	分
会場 (京都市内におい てご用意くださ い。)	会 場 名			Tel	
	所 在 地	京都市 区			
参加予定人数	人				
希望テーマ (希望するテーマ の番号に1つ○を つけてくださ い。)	① 支援者の腰痛予防～腰痛の基礎知識と健康管理（セルフケア）について～ ② 支援者の腰痛予防～福祉用具を用いた持ち上げない介助方法について（実習）～ ③ 支援者の腰痛予防～介助における身体の使い方や姿勢の工夫について～ ④ 車椅子の移動介助の基本（実習）～段差やスロープでの介助方法～ ⑤ 高齢者の身体機能維持のポイント ⑥ 障害者の身体機能低下とその対処法について ⑦ 食事を安全にとるために（摂食・嚥下について） ⑧ 失語症の方とのコミュニケーション方法について ⑨ 身体障害のある方の特性とその配慮について ⑩ 高次脳機能障害について～発症からのステップ（社会参加に向けて）～ ⑪ 高次脳機能障害について～注意障害・記憶障害・遂行機能障害について～ ⑫ 高次脳機能障害について～社会的行動障害について～ ⑬ 高次脳機能障害について～その症状と対応について～ ⑭ 高次脳機能障害のある方の就労に必要なこと ⑮ 高次脳機能障害者支援センターでの相談支援について				

* 「地域ガエルのお出かけ講座」は、ご希望のテーマに基づき職員が説明を行い、質疑応答を通して地域リハビリテーションのより一層の推進や高次脳機能障害のある方への支援の拡大を目的に開催するものです。苦情や要望、個別の相談をお聞きする場ではありませんので、その旨、参加者の皆様への周知をお願い致します。

* 講義内容の詳細につきましては、ご希望があればご相談ください。

* 今回の講座の内容に関して、個別に相談を希望する案件がある場合は、日を改めて地域リハビリテーション推進センターの相談事業として対応させていただきます。

* 講座の開催日につきましては、原則として、月曜日から金曜日まで（祝日・年末年始を除く）の午前9時から午後5時まででお願いしております。

失語症のある方の相談支援事業

ことばの障害でお困りの方の支援をします



☆失語症とは・・・

脳出血等の脳血管疾患の後遺症で物の名前が出てこない、言おうと思ったことをうまく話せない、音は聞こえるのに言葉が理解できないなどの症状があります。

”地域ガエル”は『地域に帰る』をモットーにしている当センターのキャラクターです。

☆こんなことでお困りの方

- ・ 退院後、復職・就労したいが失語症があってもううまくできるだろうか？
- ・ ことばに不安があるが、どこかに交流したり社会参加したりできるところはないかな？
- ・ 家族が失語症になったが、どのように接すればうまくコミュニケーションが取れるのだろうか？
- ・ …などさまざまな不安をお持ちの方

☆こんなことをします

- ・ 言語聴覚士が中心となって、利用できるサービスを一緒に考えます。
- ・ サービスの利用先へ失語症のことを説明するお手伝いをします。
- ・ ご家族のより良いコミュニケーション方法などを検討します。
- ・ 必要に応じて少人数でのグループワーク（失語症に関する評価や、失語症についての理解を深めるため、適切なコミュニケーション手段を使って、少人数での会話の練習）を実施することもあります。

☆対象

市内在住の失語症のある方、そのご家族、支援者

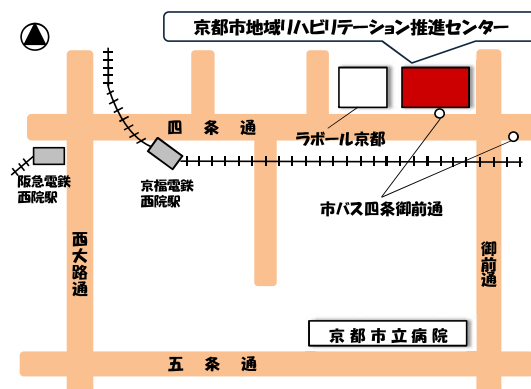
☆受付

お電話または相談窓口へ直接お越しください。

電話：075-823-1666

来所：中京区壬生仙念町30

京都市地域リハビリテーション推進センター
失語症相談窓口（1階相談課内）



市バス 四条御前通 下車すぐ
阪急電鉄 西院駅から 徒歩約6分
京福電鉄 西院駅から 徒歩約3分

ことばの障害には失語症以外にもさまざまなものがあります。うまく話せない、言っていることがよく分からない・・・でも、失語症かどうか分からないという場合もお気軽にお問合せください。相談だけでもお受けします。

京都市地域リハビリテーション推進センター

おはなし広場

失語症のある方、一緒にお話しませんか？

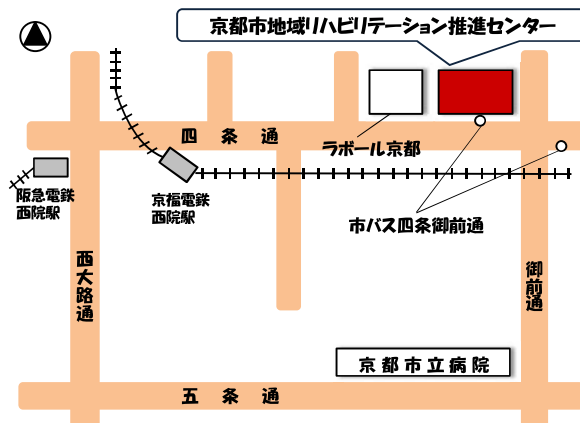
京都市地域リハビリテーション推進センターでは、失語症のある方が、コミュニケーションを楽しむお話の場として「おはなし広場」を開催しています。

病気などにより言葉が不自由になると、コミュニケーションの面で、ご本人やご家族にしか分からない悩みや不便が生じることがしばしばあります。当センターでは、参加者の方々が交流を深めていただくとともに、コミュニケーションを楽しんでいただけるよう、言語聴覚士がサポートしています。ぜひご参加ください。



- ・ 日 時： 毎月 第1, 第2, 第3水曜日 (1月と8月を除く)
午前9時～午前11時
- ＊ただし、祝日にあたる場合、当該日は休止とし、第4水曜日に開催します。
- ・ 場 所： 京都市地域リハビリテーション推進センター1階 ミーティングルーム
- ・ 対 象： 市内在住の失語症のある方
- ・ 内 容： 新聞記事の音読や歌唱、ゲーム等を通じてコミュニケーションを楽しむ
- ・ 参加費： 無料
- ・ 定 員： 10名程度

失語症とは、脳出血等の脳血管障害の後遺症で名前が出てこない、言おうと思ったことをうまく話せない、音は聞こえるのに言葉が理解できないなどの症状があります。



【申込み・問合せ先】

京都市地域リハビリテーション推進センター相談課
(京都市中京区壬生仙念町30)

電 話: 823-1666 FAX: 842-1541

受付時間: 月曜日～金曜日(祝日・年末年始除く) 8:30～12:00及び13:00～17:00

市バス 四条御前通 下車すぐ
阪急電鉄 西院駅(西大路四条)から徒歩 約6分
京福電鉄 西院駅から 徒歩約3分



発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
(平成29年5月発行)
京都市印刷物 第294158号

作業体験プログラムは、
模倣的な職場場面で色々な作業や他者との関わりをとおして、
高次脳機能障害の仕事への影響、現在の作業能力を把握し、
今後の働き方（復職・一般就労〔障害者雇用を含む〕・福祉的就労、
工夫の仕方など）を一緒に考えていくプログラムです。



職員との振り返り



ピッキング作業



対人技能（配達・注文受け）



色々な作業



参加費
無料

- ☐ 高次脳機能障害の診断を受けた
- ☐ 仕事を続けたい、復職したい、
新たに就労を考えたい
- ☐ 自身の障害特性を知りたい

☐ に全て✓がつく京都市民の方は、
京都市高次脳機能障害者支援センターにご相談ください。

作業体験プログラム

対象：京都市民の方で、高次脳機能障害があり、
◎当センター専門相談で参加が必要と判断された方
◎集団プログラムに参加できる方 など

日時：毎週木曜日 9：30～11：30

まずは、お気軽にお問い合わせください。

9：30～	朝礼
9：45～	前半作業
10：20～	休憩
10：30～	後半作業
11：00～	掃除
11：15～	終礼
11：30	終了

問合せ先：京都市高次脳機能障害者支援センター
（京都市地域リハビリテーション推進センター相談課内）

TEL：075-823-1658

FAX：075-842-1541

【電話受付時間】

8：30～12：00及び13：00～16：00

月曜日～金曜日（祝日・年末年始除く）

場所：京都市地域リハビリテーション推進センター（四条御前通北西角）

期間：約2か月（8回程度まで）

（お知らせ）

地域リハビリテーション推進センターは、令和6年1月（予定）に移転します。
＜移転先＞ 京都市中京区壬生東高田町1番地の20（京都市立病院北側）



京都市
CITY OF KYOTO



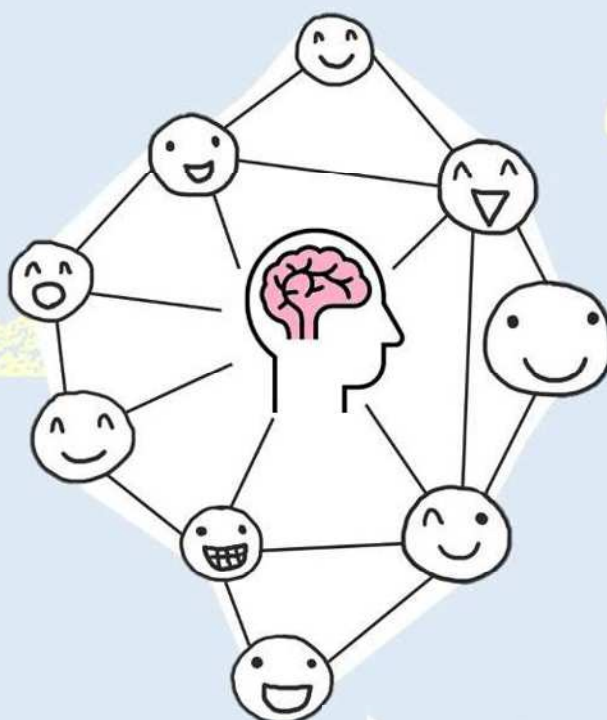
京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
（令和5年8月）

京都市印刷物 第054410号

当事者 家族 交流会

高次脳機能障害 ※



一緒にお話し
しませんか？

※ 高次脳機能障害は、脳卒中や脳損傷の後遺症として起こる、脳の認知機能の障害です。

第2金曜
(祝日除く)

午前10時
～11時半

京都市地域
リハビリテーション
推進センター
1F 研修室

事前申込制
(お電話はコチラ)

京都市高次脳機能障害者支援センター

☎ 075-823-1658

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30

47

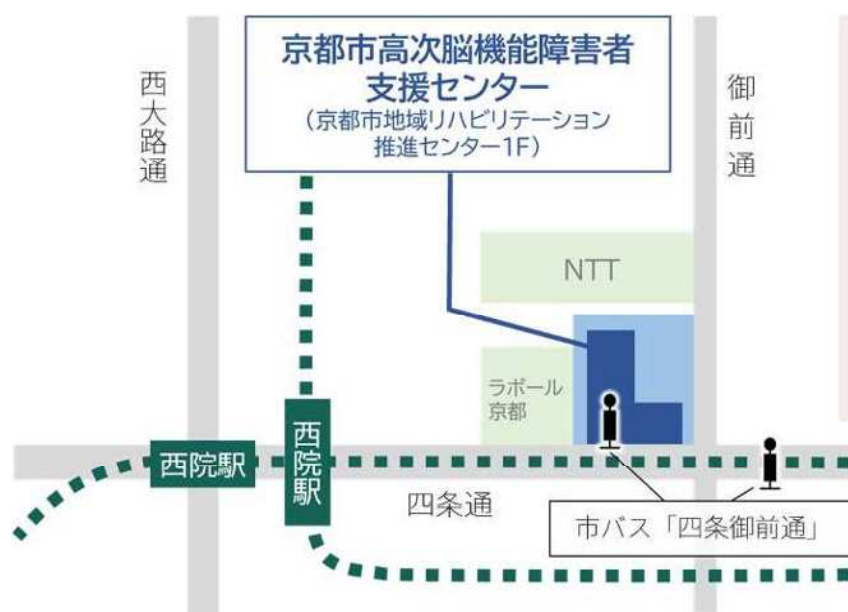


HP



Facebook

	当事者グループ	家族グループ
参加者	高次脳機能障害の当事者	当事者の親、妻や夫、きょうだい等
	地域リハビリテーション推進センター スタッフ	
	※ 支援者の方もオブザーバーとしてご参加いただけます。	
定員	30名	
主な話題	・ 症状について ・ コミュニケーションの工夫 ・ 制度やサービスの利用 ・ 今後の見通し ・ 仕事のこと ・ ストレス解消法 ・ 経済面の不安 ・ その他、雑談など	
参加者の声	「同じような経験をしたからこそ、分かってもらえた。」 「困っていることや悩みを話せてよかった。」 「他の参加者から役立つ情報をもらえた。」 「自分も当初困ったので、他の人のお役にたてたらいいな。」	
特別企画	年1回程度、講師を招いて勉強会を開催したり、サービス事業所の見学に出かけるなどの企画をしています。	
お申込み	事前申込制（チラシ表面の申込先までお電話ください）	
費用	無料	



【開催にあたっての注意事項】

- ・ 開催当日の午前7時時点で、京都市に暴風警報、特別警報が発令されている場合は、開催を中止します。
- ・ 開催を中止する場合は、当センターホームページ等に掲載しますのでご確認ください。当センターまでお問い合わせください。

令和5年度 京都府高次脳機能障害(京都市域)支援ネットワーク会議 開催概要

1 目的

高次脳機能障害に対する理解を深めるとともに、医療、福祉、介護、就労、教育、相談支援等の高次脳機能障害者支援に関わる機関で、取組状況の情報共有、地域の置かれている課題について、意見交換を行い、関係機関相互の切れ目のない支援ネットワークの構築を図ります。

2 日時 令和5年12月6日(水) 13:00～15:30

3 会場 ラボール京都 2階ホール(四条御前通北西) ※ オンライン開催なし

4 テーマ 『京都市域における高次脳機能障害のある方への就労支援』

5 内容

(1) 報告『就労支援の取組』(40分)

ハローワーク京都七条 京都障害者職業相談室
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構京都支部 京都障害者職業センター
京都障害者就業・生活支援センター
しょうがい者就業・生活支援センターはあとふるアイリス
京都ジョブパークはあとふるコーナー
京都府リハビリテーション支援センター(かもがわグループ)
京都市高次脳機能障害者支援センター(作業体験プログラム)

(2) 講演『脳外科医と精神科医が考える就労支援のタイミング』(30分)

京都大学医学部附属病院 脳神経外科 特定講師 舟木健史先生
京都光華女子大学 健康科学部医療福祉学科言語聴覚専攻 教授 上田敬太先生

(3) 事例検討『(支援者向け) 上手な就労支援機関の使い方』(60分)

京都大学医学部附属病院 脳神経外科 特定講師 舟木健史先生
京都光華女子大学 健康科学部医療福祉学科言語聴覚専攻 教授 上田敬太先生
各就労支援機関 職員

(4) 府・市センターからの事業報告(10分) など

6 参加呼びかけ機関

(京都市内) ○医療機関 ○障害者地域生活支援センター、障害福祉サービス事業所 ○就労支援機関
○地域包括支援センター、介護保険サービス事業所 ○障害児通所支援事業所
○各区・支所保健福祉センター ○児童福祉センター ○教育機関 など

7 参加について

- (1) 対象者 「6 参加呼びかけ機関」に所属する職員
- (2) 定員 100名
- (3) 参加費 無料
- (4) 申込方法 ● 申込フォームから、お申し込みください。



(申込フォーム)

(https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=7157)

- 同一事業所内複数人での参加も可能です。その場合は、1名ずつ申込みが必要です。
- 申込受付後、メール等で申込受理連絡を行います。
申込後、数日経っても連絡がない場合はお問い合わせください。
- 申込締切：令和5年11月29日（水） ※先着順

(5) 合理的配慮について 手話通訳等が必要な方は、令和5年11月22日（水）までに御連絡ください。

8 支援マップへの掲載及び掲載内容の変更

京都市域高次脳機能障害支援マップ (<http://koujinoukinou-city-kyoto.jp/shienmap/>) の掲載及び掲載内容の変更については、以下までメールで御連絡ください。

※送付先 rehabili-sodan@city.kyoto.lg.jp、件名は【支援マップについて】と明記ください。

9 主催

京都府、京都市

10 問合せ先

京都市高次脳機能障害者支援センター

電話：075-823-1658 FAX：075-842-1541

メール：rehabili-sodan@city.kyoto.lg.jp

<受付時間>

月曜日～金曜日（祝日、年末年始除く）8：30～12：00及び13：00～16：00

入門講座

令和5年度（後期）



高次脳機能障害 ※

※ 高次脳機能障害は、脳卒中や脳損傷の後遺症として起こる、脳の認知機能の障害です。



会場開催日	オンライン 受講期間	テーマ・内容
10月20日(金) 10時～11時	なし	特別編「当事者・家族からの声、関連事業所等紹介」
10月27日(金) 10時～11時	左記から3週間	高次脳機能障害とは
11月17日(金) 10時～11時	左記から3週間	注意障害・記憶障害・遂行機能障害
12月 1日(金) 10時～11時	左記から3週間	社会的行動障害
12月15日(金) 10時～11時	左記から3週間	失語症
12月22日(金) 10時～11時	左記から3週間	就労に向けて



会場

or



オンライン



申込フォーム

お問合せは
コチラまで

京都市高次脳機能障害者支援センター

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30

(京都市地域リハビリテーション推進センター相談課内)

Tel : 075-823-1658 / Fax : 075-842-1541



HP

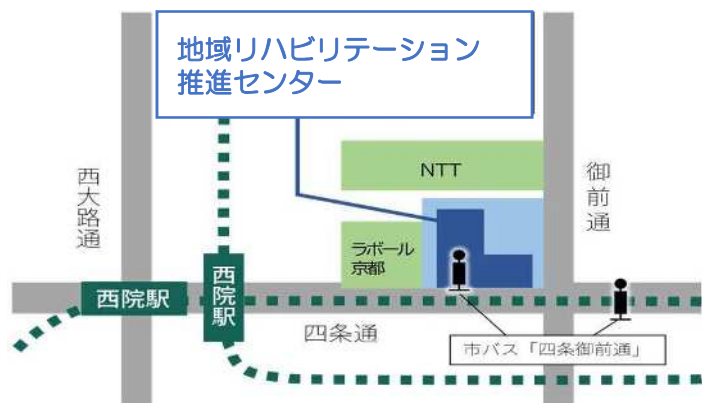


Facebook

	 会場	 オンライン
場 所	地域リハビリテーション推進センター 1F 研修室	YouTube限定公開
定 員	30名（市民の方を優先）	なし
申 込 方 法	申し込みフォーム、または、電話、FAX	申し込みフォームのみ
対 象	高次脳機能障害のある方、そのご家族、支援者、障害に関心のある方	
費 用	無 料	

【開催にあたっての注意事項】

- ・申し込みは、各講座開催日の2日前まで受け付けます。
- ・こちらから申込受理の連絡を行います。申込後、数日経っても連絡がない場合は、お問い合わせください。
- ・開催当日の午前7時時点で、京都市に暴風警報、特別警報が発令されている場合は、会場での開催を中止します。
- ・最新情報はホームページに掲載しますので、ご確認ください。
- ・会場開催が中止となった場合に、オンライン受講を希望される方は、お申込みの際にメールアドレスもご記入ください。中止時にオンライン受講用のURLを送ります。



（お知らせ）

地域リハビリテーション推進センターは、令和6年1月（予定）に移転します。
 <移転先>京都市中京区壬生東高田町1番地の20（京都市立病院北側）

令和5年度（後期）高次脳機能障害入門講座【会場】受講申込書（FAX用）

FAX：075-842-1541

ふりがな		
氏名	連絡先TEL（必須）： 連絡先FAX：	
※ 支援者の方のみ記入	事業所名	職種
※京都市内に在住・在学・在勤の方ですか （ はい ・ いいえ ）		
※会場での開催が中止の場合、オンラインでの受講を（ 希望する ・ 希望しない）		
メールアドレス	(会場開催の中止時、オンライン受講希望の方は必須) @	
テーマ	会場受講（希望日に○を記入）	
特別編「当事者・家族からの声、関連事業所等紹介」	10月20日（金）	
1. 高次脳機能障害とは	10月27日（金）	
2. 注意障害・記憶障害・遂行機能障害	11月17日（金）	
3. 社会的行動障害	12月 1日（金）	
4. 失語症	12月15日（金）	
5. 就労に向けて	12月22日（金）	

別冊資料

(資料1) センター機関紙「リハ✿エール (第30号)」

(資料2) センター機関紙「リハ✿エール (第31号)」

リハ✽エール 30

2023年5月

令和5年度 前期 高次脳機能障害 入門講座 はじまる。



今年も選べる

2つの受講スタイル



会場

or



オンライン

オンラインはYouTube
チャンネル限定公開により
オンデマンドでご視聴いた
だけます。

誰でも受講可

障害の当事者、
ご家族、支援者、
高次脳機能障害
に関心のある方

会場開催日		オンライン 受講期間	テーマ・内容
5月19日(金)	10時～11時	左記から1週間	高次脳機能障害とは
6月16日(金)			注意障害・記憶障害・遂行機能障害
7月21日(金)			社会的行動障害
8月18日(金)			失語症
9月15日(金)			就労に向けて

京都市高次脳機能障害者支援センター

☎ 075-823-1658

お申し込みはこちら →
(入力フォームへ)





京都市地域リハ
ビリテーション
推進センターの

よくわかる！

障害者支援施設



施設の食事について

日常生活を楽しく、健康的にするのに欠かせないのが“食事・運動・睡眠”です。

今回は、施設の食事について紹介します。当施設では、“味”だけでなく、“健康＝病気改善・予防”にもつながる食事を楽しんで食べていただけるよう、管理栄養士と調理師が様々な工夫をしています。

高次脳機能障害発症の多くは
「脳血管障害」が原因！

食事紹介の前に…病気の予防について

当施設利用者の方の多くが脳血管障害を発症されています。このうち、脳梗塞の原因の1つに動脈硬化があります。動脈硬化は、**高血圧**、**高血糖**、**脂質異常症**によって引き起こされます。

施設では、これらを改善できる食事を提供しています。 具体的には…

塩分を控える



適正なエネルギーを摂る
(肥満解消)

魚を食べる



～ この3つが特に大切です！ ～

その1 塩分を控える

正常な**血圧**を保つためには**塩分管理**が重要です。

＊塩分を減らす工夫として＊

- ・**醤油スプレー**を使い、表面のみに味をつけ、美味しく塩分を減らします。
- ・塩分は濃度よりも、摂取量が大きく影響します。
- ・**麺類**は、平皿を使い濃い目の汁を通常の半分にして提供。満足感を保ちつつ塩分を減らします。



醤油スプレー



平皿で提供

その2-1 適正なエネルギーを摂る

血糖値を適切に保つには**体重管理**が重要です。適正な体重（標準体重）を維持するために、施設では年齢、性別、活動レベル、持病を加味し、適正なエネルギー量を設定しています。

その3 魚を食べる

魚はEPA等のオメガ3系の不飽和脂肪酸が含まれ、血栓防止や血管を柔軟にします。

ところが、魚は骨や匂いで敬遠されがち。そこで、通常の給食では使わないような食材、調理方法で、“魚を食べてみたい”と思ってもらえる料理の提供を行っています。

その2-2 肥満解消

肥満解消には低エネルギーの野菜がポイントです。野菜は食物繊維が含まれ、低エネルギーで満腹感を得る事が出来ます。ただ、大人でも苦手な人は多く、残しがち。施設では、彩りや味付けを工夫することで、完食を目指しています。



カリカリベーコンが美味しい
イタリアンサラダ



シャキシャキ食感が癖になる
ひじきサラダ



金目鯛枝豆ソース仕立



鮭たたき丼

大人もデザートは大好き！甘いものは別腹です。



バレンタインにガトーショコラ



春はやっぱりいちご大福



夏は水無月で暑気払い

旬のフルーツも大人気♪



サクランボ



西瓜



ラ・フランス



食堂はカフェテリア形式。利用者さん自身が配下膳を行い、生活動作を高めます。



自分で決める楽しみを！

食に対する関心が薄れた人も多いため、主体的に決めていただけるよう、月に2～3回の選択食を取り入れています。

あなたならどっちを選ぶ？

有名外食産業のメニューを提供

「たまには外食気分を楽しみたい！」という要望に応えて



バーガー、ナゲット



牛丼

【選択食の例】

酢豚	or	エビチリ
お好み焼き	or	焼きそば
担々麺	or	ちゃんぽん麺
ナポリタン	or	ペペロンチーノ

京都市地域リハビリテーション推進センター 障害者支援施設 概要

- ◆利用対象者：18歳以上で高次脳機能障害を有する方
- ◆利用定員：入所又は通所での自立訓練
(機能訓練25名、生活訓練15名。うち施設入所支援30名。短期入所も行っています。)
- ◆利用期間：個々の課題や目標に応じて、機能訓練は最長1年6か月、生活訓練は最長2年
- ◆お問合せ：京都市高次脳機能障害者支援センター TEL 075-823-1658

今年度もやいます！

京都市地域リハビリテーション推進研修



毎年、さまざまな支援者に参加していただいている、京都市地域リハビリテーション推進研修を、今年度も開催します。

今年度は、当センターの会場とオンラインを同時に行うハイブリッド形式だけでなく、実技やデモンストレーションを中心とした、会場のみで実施する講座も増やす予定です。

また、従来から実施している、基本動作の介助方法等を学ぶ実習も、当センターで行う「会場型」と、お勤めの事業所等で行う「出講型」を継続して実施します。

現在、検討中の内容

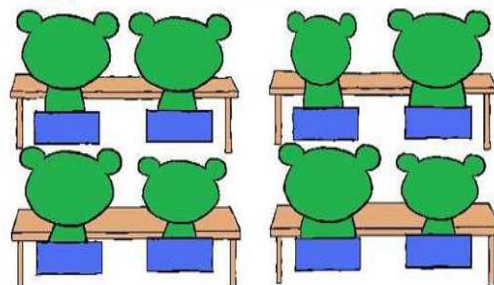
- ・発達障害：自閉症、強度行動障害、発達性協調運動障害への対応
- ・精神障害：気分障害、統合失調症、依存症の理解と支援や薬物療法
- ・高齢者：在宅での栄養管理や嚥下機能への支援、福祉用具の選定と適切な使用方法
- ・その他：医療的ケア、ポジショニング、呼吸器ケア 支援者のストレスマネジメント など

～ 上記の内容については、変更する場合があります。ご了承ください。 ～

研修の実施内容が確定しましたら、京都市情報館の当センターのホームページに掲載します。

研修は、基礎的な内容から、事例を通じた実践的な内容まで、いろいろな講座を予定しています。

無料です！



研修の参加費は、**無料**です。

是非、ご参加ください！



リハ✿エール第 30 号（令和 5 年 5 月発行）

京都市地域リハビリテーション推進センター
〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町 30 番地
電話：075(823)1650(代表)

Email: rehabili@city.kyoto.lg.jp

京都市印刷物 第 054151 号

京都市地域リハビリテーション推進センターだより

リハ★エール 31

2023 年 8 月

令和5年度京都市地域リハビリテーション推進研修
京都市高次脳機能障害者支援センター共催

脳障害を理解するっ!!

高次脳機能障害・発達障害・認知症 Season 2

11月8日(水)

講師：丹治 和世 氏

小石川東京病院 精神科 副院長 精神科医

13:30～15:30

講師：上田 敬太 氏

京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科
言語聴覚専攻 教授 精神科医

脳の機能不全の臨床に長年携わっておられるお二人の医師から、高次脳機能障害、発達障害、認知症それぞれの障害や症例について分かりやすくレクチャーしていただくとともに、事例をもとにして、対談形式で現場に即した対応方法なども深めていただきます。

高次脳機能障害・発達障害・認知症の診断、治療、リハビリ、療育、生活訓練、就労、地域生活などの支援に関わる皆様、ぜひご参加ください。

会 場：京都市地域リハビリテーション推進センター1 階研修室(会場)と
Zoom(オンライン)同時開催

受講料：無 料

- ★ 申込受付は、9月1日から開始します。
詳細は、ホームページをご覧ください。



ホームページ



申込フォーム

(9月1日から申込受付開始)

京都市地域リハ推進研修

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

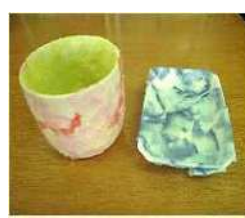
障害者支援施設



施設の取組をご存じですか？

当施設では高次脳機能障害のある方を対象に訓練を行い、日常生活の自立や就労等の社会参加につなげていけるよう支援を行っています。

今回は、“作業”に着目して当施設で提供している訓練プログラムについてご紹介します。



作品を作るといった、創作活動を行うプログラムが“作業活動”です。

参加する利用者さんは、黙々と集中して作業に取り組んでいます。中には、隣の人の作品をのぞき込んだり、合間に楽しく話をしながら作業をしている方もいます。



作業活動では、どんなことに取り組んでいるの？



【ビーズ工作】



【籐細工】



【仕分け作業】

大きく分けて、次の3種類あります。

◎ 創作活動（ビーズやタイル絵画、毛糸や糸手芸、籐、革細工などの手工芸）

◎ 認知系活動（パズル、仕分け作業など）

◎ 上肢機能系活動（手指を細かく動かす練習、おもりあげなどの筋力強化練習など）

各利用者さんの課題に沿って、作業療法士が創作作業を中心に作業種目をいくつか考え、その中から、利用者さん自身が好きな活動や挑戦してみたいものを選んで取り組みます。

訓練時間の40分間には、自分で必要な道具を取り出したり、2つの課題をこなせるように時間配分を考えたり、前回の続きから取り組めるようにメモを残したりと、できる事については、なるべく自分で管理しながら取り組みます。

職員さんは何に注目しているの？どんな目的で行っているの？



- ◎ **利用者さんの作業能力や動作能力の評価をしています。**
どんな作業だったら得意そう？どんな工夫が必要そう？困った時に助けを呼べる？
作業をする時には文字の説明書きだけで大丈夫？写真付き手順書が必要？など。
- ◎ **達成感を味わえるように工夫しています。**
ただ訓練するだけでなく、利用者さんの「できた！」という自信や、「嬉しい！作って良かった！」という気持ちを持ってもらえるよう取り組んでいます。
「また頑張って作りたい！」という積極的な言葉も聞かれます。
- ◎ **高次脳機能障害の課題に働きかけ、機能の改善を図っています。**
課題選びや作業中の声掛け方法を工夫しながらアプローチをしています。
記憶障害の方には代償手段のメモを使う練習を設定したり、注意障害で疲れやすい方には時間管理や休憩の取り方の工夫について助言し、情報処理の苦手な方には図面や手順書を見て照合し、自分で考える場面を設定しています。
作品作りを通して楽しく訓練を行ってもらっています。



作ったものはどうするの？



- ◎ **作ったものは、それぞれで持ち帰っていただきます。**
人によっては、家族や友人にプレゼントしたいと希望される方もいらっしゃいます。
プレゼントにする時は、“ラッピング”も作業活動として取り組みます。

施設での作業活動が、地域ではどんなふうに使われるの？



- ◎ **自宅や通う他の事業所でも続けられるような、得意な作業・好きな作業を見つける。**
地域の事業所には、就労継続 A 型・B 型、就労移行、生活介護、デイサービスなどさまざまな事業所があります。このプログラムでは主に、就労継続 B 型事業所に通った場合…を想定しながら、利用者さんに種々の作業に取り組んでいただいています。



当施設では、集団でのプログラムや生活場面を通して、
職員一丸となって支援しています!!
利用をご希望の方は、是非お問い合わせください。



～ 京都市地域リハビリテーション推進センター 障害者支援施設 概要 ～

利用対象者：18 歳以上で高次脳機能障害を有する方

利用定員：入所又は通所での自立訓練（機能訓練 25 名、生活訓練 15 名。うち施設入所支援 30 名。短期入所も行っています。）

利用期間：個々の課題や目標に応じて、機能訓練は最長 1 年 6 か月、生活訓練は最長 2 年

お問合せ：京都市高次脳機能障害者支援センター

TEL075-823-1658 FAX075-842-1545

＼電動車椅子の安全な利用のために！／

第 1 回

電動車椅子の講習会のご案内



当センターでは、これから電動車椅子を利用したいと思っている方、ケアマネジャーなど電動車椅子を勧める立場にある支援者の方を対象に、京都府警察中京警察署や電動車いす安全普及協会のご協力の下、「電動車椅子の講習会」を開催します。すでに電動車椅子をご利用中の方も、この機会に交通ルールや基本操作を再確認してみませんか？皆様のご参加、お待ちしております！



【内 容】

講 習「交通ルールについて」

講 師：京都府警察中京警察署 交通課署員

講 習「電動車椅子の種類と基本操作について」

講 師：当センター職員

実 技「実際に乗ってみましょう」

様々な状況の模擬コースを体験できます。

【日 時】令和5年9月12日（火）午後1時30分～午後4時

【申込期間】令和5年8月10日（木）～9月11日（月）

【参加費】無 料

【定 員】各回15名（参加者が定員を超える場合は、京都市民及び京都市内の事業所に勤務されている方が優先・先着順。）

【問合せ・申込先】地域リハビリテーション推進センター 相談課

電話：075-823-1666 FAX：075-842-1541



第2回も同じ内容で、令和5年11月7日(火)開催予定です！



電動車椅子の講習会

京都市地域リハビリテーション推進研修

10月～11月 開催講座の申込受付が9月1日から始まります！

この研修は支援者の方々を対象に、リハビリテーションに関連する知識や介護技術等の向上を目的として行っています。様々な分野の研修をご用意しています。ぜひ、ご活用ください！



詳しい研修の日程や内容は
ホームページからご覧いただけます →



ホームページ



10月～11月 申込フォーム

(9月1日から申込受付開始)

リハメール第31号(令和5年8月発行) 京都市印刷物 第054434号 京都市地域リハビリテーション推進センター
〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 電話：075(823)1650(代表) Email：rehabili@city.kyoto.lg.jp

(お知らせ)

地域リハビリテーション推進センターは、令和6年1月(予定)に下記に移転します。移転後は、こころの健康増進センター及び児童福祉センターとの一体化施設として3施設が連携し、障害・児童福祉の専門機関として、相談・支援をさらに充実していきます。

移転先：京都市中京区壬生東高田町1番地の20（京都市立病院北側）